

明治  
東京女子美術大学  
美術部  
美術書

CZ  
1113  
99-03

東京圖書館

新門二五函

十部三架

二類號

CZ  
1113  
99-03

明治  
愛媛縣布達全書  
下

明治九年 愛媛縣布達全書

○乾第九拾號

七月三日

學資寄附及獻納ノ者出願ノ節願面へ一時納又ハ即納或ハ皆納ト記載致レ差出候向ニ限リ別段皆納届不爲差出候處以來金壹圓以上ノ分ハ總テ皆納届可差出此段布達候事

但本文皆納届ハ寄附金受取人ヨリ可差出事

○乾第九拾一號 無輪兩 七月五日

今般東京府下内藤新宿勸業寮支廳内農事修學場へ豫科試業科ノ兩生徒各壹員宛テ限一府縣ヨリ招集候旨別紙入場規則ヲ以内務省ヨリ達相成候條志願者ハ右規則ニ倣ヒ本月三十一日限可願出此段布達候事  
農事修學場入學規則

### 第一條

一農事修學場ハ勸業寮ノ所轄ニシテ農學獸醫學生徒ヲ教育スルノ所ナリ

### 第二條

一入學免許ハ凡ソ日本ノ臣民諸族ヲ問ハス身體壯健行狀端正ニシテ試験ノ上及第スル者ヲ以テ撰ミ命ス

但其試験ノ方法并入學生徒ノ員數ハ當場ノ都合ニ依テ之ヲ決定ス

### 第三條

一當場現今農學獸醫學ノ二課ヲ設置レ以テ生徒志願ノ一課ヲ修學スルヲ得セシム然レモ之ヲ決志スルノ後ハ變スルヲ許サス

但農学科中ニ試業ノ一課ヲ置其規則ハ之ヲ第十條ニ就テ見ヘシ

#### 第四條

一 當場現今英國人ヲ擧ケ教師ニ任用スルヲ以テ諸課ヲ教授スルノ際英語ヲ用ヒサルヲ得ス

#### 第五條

一 生徒修業ノ順序ヲ設ケルヲ左ノ如シ

#### 第一 豫課

#### 第二 專門 農學獸醫學

#### 第六條

一 豫科ハ專門科ニ入ラントスルノ階梯ナレハ各生徒先ツ此課ニ入ラサルヲ得ス而テ此課ニ入ルノ生徒ハ年齡十三以上十五以下ニシテ

二

各府縣一人宛ヲ限リ招集ス

但東京寄留ノ者ニテ志願ノ者ハ本縣添翰ヲ以テ東京府廳ノ試験ヲ經ルモ妨ケナレ

#### 第七條

一 豫科生徒入學試験ノ方法左ノ如レ

第一 身體強健ニシテ天然痘又ハ種痘ヲ爲セシモノ

第二 讀書普通紙譯書ノ類

第三 算術 洋算分數比例

第四 習字 楷書草書

第五 英語 單語

#### 第八條

一農學科ハ豫科卒業生徒ノ上級シテ此課ニ入ルモノトス但現今生徒  
貳拾名ヲ限り假ニ豫科生徒ノ上級シタル者ト見做シ適宜ニ召集ス  
生徒年齡十五以上十八以下性質温厚沈實ニシテ試験ヲ經テ及第ス  
ル者ハ入學ヲ許ス

### 第九條

一農學科生徒入學試験ノ方法左ノ如シ

第一 身體診査

第二 國文讀書 日本外史

第三 英語

第四 究理學初步

第五 算術

三

第六 地理學

第七 博物學大意

第八 化學大意

但試験ノ節從來學ビ得シ學業ノ履歷書ヲモ差出スヘシ

### 第十條

一試業科ヲ設置スルノ目的ハ從前多少農事ノ現術ニ從事セシモノヲ  
シテ直ニ實地ニ就キ其技術ヲ拆衷習得セシメ專ラ現業秀特ノ農業  
技術課ヲ教育スル爲メナリ故ニ特別ノ課トス生徒年齡二十以上三  
十以下ニシテ現今各府縣一人宛ヲ限り召集シ國語ヲ以テ教授ス

### 第十一條

一試業科生徒入學試験ノ方法左ノ如シ

第一 身體強健ニシテ天然痘又ハ種痘ヲナセシモノ

第二 國文讀書

第三 從前農事ニ從事セシ履歷書

第四 五反歩以上ノ土地ヲ所有スル者其子弟タルモノ

第十二條

一 獸醫學ハ豫科卒業生徒ノ上級シテ此課ニ入ル者トス

但現今生徒三拾名ヲ限假ニ豫科生徒ノ上級シタル者ト見做シ適宜ニ召集ス生徒年齡十五以上二十以下ニシテ試験ヲ經テ及第スル者ハ入學ヲ許ス

第十三條

一 獸醫學科生徒入學試驗ノ方法ハ第九條農學生徒試驗方法ニ同シ

第十四條

入學願書雛形 用紙美濃ニツ折  
三通ヲ出スヘシ

一 私儀兼テ 農學 獸醫學執心ニ付今般勸業寮支廳内農事修學場へ入學修業 農事

仕度志願ニ御坐候間其筋へ御申立被下度此段奉願候也

某 府 華族平民

某大區某小區 町 住某 官名 某 職名 某

長次男或兄弟厄介

但寄留

區及 町 名地所番號寄留或ハ 村

某同居等ヲ記載スヘシ

年號月日

苗字名印

何年何月於何國何所出生  
何月何歲何ヶ月

何府知事 參事某殿  
縣令

府縣添書雛形 本人願書折返シ裏面へ

前文願之趣相達無之條御試驗ノ上可然御取捨有之度候也

年號月日

何府知事 參事某印  
縣令

勸業頭某殿

請書雛形 用紙美濃紙二  
ツ折寫共二通

一私儀願ニ因テ御試驗ノ上入學修業被命候ニ就テハ場中ノ御規則堅  
相守修業滿期成業ノ後ハ御規則ノ年間奉務勉勵可仕候依之御請書  
如件

某長次男或ハ兄弟厄介

年號日月

苗字名印

勸業寮

御中

引請人保證雛形 用紙美濃紙二  
ツ折寫共二通

某府華族平民  
縣士

某大區某小區某町住某或官名某  
村職名某

長次男或  
兄弟厄介

苗字名

右之者御試験之上入學修業被命候ニ付テハ本人請書之通堅ク相守ラ  
セ可申候萬一當人在校中御規則ニ背キ候歟其他不都合ノ儀等有之候  
節ハ私引請可申候依之保証如件

某府 華族平民  
縣 士族平民

東京府下某大區某小區某町住或ハ  
村

寄留

年號日月

苗字名印

勸業寮

御中

第十五條

一 生徒ノ衣服食料ハ官費ヲ以テ支給シ下着及ヒ整粧ノ具ハ總テ私費  
ニ充テルヘシ

第十六條

一 及第ノ生徒ハ前條雛形ニ倣ヒ本人請書及ヒ引請保証ヲ出サレムヘ  
シ其引請人ハ東京府下ニ住シ其身ヲ依托スルニ足ルヘキ一戸主ヲ  
保証人トスヘシ

第十七條

一 生徒若シテ學期未滿ニシテ不幸廢篤疾ニ罹リ修業ヲ爲ス能ハサル者  
ノ外自己ノ私情又便利等ニ依リ退場スル者ハ在場中ノ諸費ヲ一時



ニ返納セシム卒業ノ後奉務スル者ノ年期未滿ニシテ辭職スル者モ亦前文ニ照レテ在場中ノ諸費ヲ其奉職ノ年月ニ比較レテ其殘額ヲ返納セシムヘシ若シ能ハサル者ハ保證人ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ

第十八條

一 生徒怠惰ニシテ學業進步スル能ハサル歟或ハ不行跡等ニシテ退場ヲ命スルモ前條ニ照レテ之ヲ辨償セシム

第十九條

一 生徒官物ヲ損傷シ或ハ居室ヲ破壊シ自ラ償フ能ハサル者ハ保證人ヨリ辨償セシムヘシ

第二十條

一 生徒成業後奉務年限左ノ如シ

第一 修業滿一ケ年ノ者ハ 滿一ケ年

第二 同 二ケ年ノ者ハ 同二ケ年

三ケ年以上此比例ヲ以テ積算シテ年限ヲ定ム

○乾第九拾貳號 同日

松山裁判所設置ニ付自ラ消滅

○乾第九拾三號 七月六日

松山裁判所設置ニ付自ラ消滅

○乾第九十四號 無効

醫ハ人生貴重ノ命脈ヲ司ルノ任ニシテ容易ナラサルノ業タルハ合更論ヲ待タズ今コ、ニ聰明敏悟夙ニ醫學ヲ善スルノ人アリト雖モ修業ノ久シキト經驗ノ多キトニヨラザレハ或ハ治術ヲ誤ラスト謂フヲ得

ス况ンヤ癩疾ニシテ針灸整骨ヲ業トスルモノ或ハ奸商ノ利ニ敗レ情  
農ノ力ニ倦ミ一旦糊口艱難ノ余リ他人病痾ノ衰弱ニ乘レ功言己カ長  
ヲ説キ令色人ノ短ヲ擧ケ其始メ竊カニ診脈投劑スルモ竟ニ公然醫中  
ニ伍スルニ至ル茲ノ如キ輩ノ七尖ヲ以テ人ヲ非命ノ死地ニ驅ル實ニ  
歎スヘキモ亦余リアラスヤ此故ニ這回醫務取締ヲ設クルニツキテハ  
衆醫員於テモ別紙心得書之通相互ニ制限ヲ立苟且ノ所業無之様可致  
此段醫業ノ者へ布達候事

醫業心得書

一凡病客ヲ待ツ虚心平氣ニシテ痛ク貪利ノ意念ヲ絶テ其病症ノ篤キ  
ヲ見テハ博ク衆醫ニ協議シ其疑團アル者ハ醫務取締ニ開申シテ區  
内洽テク議スルヲ要ス

- 一洋法ヲ旨トシテ洋藥ヲ用ユルニ習熟セサル者ハ其分量ヲ誤ルノ憂  
ナキヲ免レヌ故ニ戒メテ是ヲ用ヒサルヲ要ス
- 一流行病及ヒ天行痘アラハ速ニ醫務調査係へ届出ヘシ
- 一痘痘免許ヲ受タルモノハ時々申合種接ヲ怠ラサルヘシ
- 一貧民疾病ノフアラハ施藥之事ヲ組合醫員ト協議スヘシ
- 一貧民ノ嬰兒ニ種痘施術ヲ爲スヘシ
- 一疫牛コレアル時ハ豫テ定ムル所ノ醫員ト協議シ豫防法ヲ施行スヘシ
- 一患者表ハ二月八月種痘表ハ六月十二月死亡表ハ一月七月無運滯醫  
務取締へ差出スヘシ
- 一診断録ハ左之雛形ノ如ク認メ置ヘシ時々取締於テ檢査スルヲアル

へレ

但シ雖形ヲ設ルト雖モ詳細ニ涉ルヲヨントス

書式

何郡何村

族屬

何某

年齡

何月何日診

病症

附方轉方

全治

休藥

轉醫

死亡

一門生ヲ差置候ハ、左之通記載シ届出ヘシ

某縣下某郡某村族籍

何誰子弟ノ譯

何某

年齡

祖先來醫業或ハ新ニ志學何年何月ヨリ醫學ニ就キ某年某月ヨリ何

某へ入學又ハ始テ入學等ノ譯ヲ記ス

○乾第九十五號

凡藥種ヲ以渡世トスル者ハ常ニ醫門ニ出入メルヲ以テ動モスレハ醫業ト混同スルノ患ナキヲ免カレス依而今般醫務取締ヲ設ルニ就テハ別紙心得書之通一層界限ヲ立テ決而醫業ニ紛ラシキ處業致聞敷且又今般藥舖營業鑑札可下渡ニ付醫務取締與印ヲ以可願出尤本年一月一日ヨリ右鑑札無之者ハ營業不相成候此段藥舖之者へ布達候事

明治九年十月二十一日付  
番外布達ヲ以九月一日ヲ一月一日ニ改正

但レ自今新ニ開業スル者ハ同様可願出事

### 藥舖心得書

#### 第一條

近來西洋ノ製藥ヲ賣買スルニツキ渾而鄭重ニ取扱ヒ限量等ハ別而大  
切ニ相心得家業ノ暇ニハ病院或ハ西洋醫師ニ就テ藥性學ヲ研究スヘ  
レ

#### 第二條

總テ醫員ノ法案誓ニ非ラスレテ調藥スル事ヲ禁スルモノトス

#### 第三條

十

醫員ニ非ル者非常ニ多分ノ藥品ヲ購求スル者アラハ能々其原因ヲ聽  
取趣ニヨリ醫家ニ伴フテ推究スヘン

#### 第四條

藥品ヲ取扱フ者ハ年齢滿十五歲以上ニシテ從來藥名量目等ヲ熟知ス  
ル者ニ限ルヘン

#### 第五條

毒藥一切及劇醉藥ハ假令惡風惡犬等ヲ殺除スルダモニ求ルト雖モ之  
ヲ販賣スル事ヲ禁スルモノトス

但レ免許醫家ノ需用ハ此限ニ非ス

#### 第六條

舶來染粉類ノ中ニハ毒物ヲ含有スル物有之ニ付飲食用ニ販賣スルヲ

禁ス

○乾第九十六號

七月七日

官許發賣ノ製藥ヲ、患者ノ容體ヲ酌量シテ私斷ヲ以テ服用爲致  
間敷候此段賣藥人へ布達候事

○乾第九十七號

同日

舶來染粉之中ニハ毒物ヲ含有スル物有之候ニ付飲食用ニ賣買候儀差  
止候條菓子商業之者共別而注意可致此段布達候事

○乾第九十八號

七月十一日

明治十年二月丙第二十號ヲ以酒類擔賣云々ノ儀取消

乾第九拾九號

無輪廓

七月十三日

本年六月第九拾六號ヲ以テ官方へ調達金公債ノ御處分相成候ニ付証書

所持ノ者ハ勘定書相添來ル八月十五日限管廳ヲ經由レ大藏省へ可届  
出右期限後ハ一切採用不相成旨公布相成候ニ付テハ於縣廳調査ノ都  
合ニ有之候間証書所持者ハ來八月五日限可申立候尤期限過去候ハ、  
所持人無之儀ト見做レ取調候條其旨豫テ可相心得此段布達候事

○乾第百號

七月十四日

明治八年<sup>十二</sup>月<sup>十二</sup>乾第百九十三號布達娼妓取締假規則中第五條但書追加

及第八條末文改正

○乾第百一號

無輪廓

七月十八日

修驗宗被廢止天台真言兩宗へ歸入之儀ニ就而ハ七年<sup>四</sup>月乾第四十八號

ヲ以相違候趣ニ有之候處今以所屬確定不致者有之取調向差支候條渾  
而右布達之旨趣ニ基キ所屬相定至急可届出此段舊修驗之者へ布達候

事

但轉派情願之者ハ事故詳細本山へ申立可受指揮尤轉派候者ハ該人體ノミニ限リ院跡ニ於テハ所轄替不相成儀ト可心得事

○乾第百貳號

七月廿五日

明治九年五月乾第六十五號布達縣稅規則第三則ニ増加

○乾第百三號

七月廿六日

訴訟事件ニ付裁判所へ出頭ノ節ハ必ス代書人相用ニルヨ及ハス候儀ハ已ニ明治七年第七拾五號公布ノ趣モ有之訴訟人ニ於テ文字ヲ知ラズ自己訴答ノ意味ヲモ書載レ能ハサルモノニシテ其代書ヲ他ニ求ムルモノハ必ス其訴答ノ原由及從來ノ手續ヲモ瞭知シタル者ニツラサレハ其求メニ應スヘカラサルノミナラス却テ其事理ヲ錯謬シ根元ノ

主意ヲモ失フ患アリ況ヤ代書ヲ爲スモノハ固ヨリ其依頼スルト依頼セサルハ依頼スルモノ、信認ニ出テ始メテ其當ヲ得ヘキモノナルニ縣下ノ如キハ是迄ノ弊習ニテ動モスレハ招牌ヲ掲ケ號旗ヲ建專業ノ如ク相心得居候者有之哉ノ趣右ハ必ス其文字ヲ作ルニ堪ユルモノト雖モ更ニ訴訟人ヲ邀請シテ代書等ノ事ヲ勸ムルノ筋ニ相聞ヘ不都合ノ次第ニ有之候以來訴訟ヲナス者及ヒ訴訟代書ノ依頼ヲ受クル者共心得違無之様厚ク注意可致此段布達候事

○乾第百四號

同日

人民出訴ノ事件ニ付差添人ヲ用ユルハ明治七年太政官第七十五號公布第二款ノ通親戚又ハ朋友ノ者ニ限ルヘキ筋ニシテ緣故無之者等猥ニ差添人ト稱シ其訴訟事件ニ關係致候儀ハ一切不相成候條此段布達

候事

但親戚朋友ノ者ト雖モ必差添フヘキ儀ニハ無之本人情願ニ任ス  
ヘキ事

○乾第百五號

七月三十一日

區縣會議ノ儀ハ既ニ町村會假規則ニ掲クルカ如ク引續テ取開クヘキ  
見込タリト雖モ人民不慣ニシテ町村會ステ速ニ開ケ難ク漸ク此節ニ  
至ツテ一千零八場ヲ開設シ町村殆ント全開ノ姿ニ立至レリ依テ別  
册假規則ヲ以テ先ツ區會ヲ開設シ引續テ縣會ヲモ開場可致候條此段  
布達候事

但レ縣會假規則及ヒ日限等ハ進テ可相違且又區會ノ議員ニハ旅  
費日當別表ノ通可致支給事

區會議員旅費定則

一旅費ハ一日十里詰ヲ以テ表面ノ日當ヲ支給スヘレ

但十里以上ノ端里數滿一里以上ハ日當一日分ヲ給レ一里未滿ハ  
切捨トス

第一條 居住地ヨリ區會所エ片道六里以上ヨリ之ヲ給ス

但片道未滿ハ第二條ニ準ス  
明治九年八月廿八日乾第百十四號ヲ  
以(縣廳又ハ)ノ四字ヲ刪除

第二條 同上片道三里未滿ニシテ日歸ナレハ日當ヲ給セス宿泊スレ  
ハ滯留日當ヲ給シ片道三里以上六里未滿ハ日歸宿泊ノ別ナク往返ニ  
テ並旅行日當一日分ヲ給シ滯在スレハ滯留日當ヲ給ス

區會議員旅費表

	並旅行	滯留
區會	金三拾錢	金貳拾錢

愛媛縣大區會假規則

會議綱領

第一條 此會議ハ各小區ヨリ各一人ノ代議人ヲ撰ミ各六區内專ヲ人民ノ協議ニ係ル則チ第四十一條ニ掲クルカ如キ條款ヲ議スルノ會ニシテ毎年二度開クヲ常例トス臨時會議ハ議員十分ノ六以上申立アレハ速ニ之ヲ開クモノトス  
明治十一年十一月丙第七拾號  
 チ以讚岐國ニ限各一人ヲ二人ト改ム

第二條 本會議案ハ第四十一條ニ掲クルカ如キ條款ノ尤モ急ナル者ヲ選ミ大區會所ニ於テ議案ヲ設ケ開會數日前衆議員ニ告示スヘシ

第三條 公選ニ應リ議員タルモノハ則チ其區内人民ノ名代ナレハ各自充分ニ其議ヲ盡スヘキハ勿論決シテ一己ノ私心ヲ以テ偏頗ノ説ヲ主張スルナキヲ要ス

第四條 本年第九月第二金曜日ヲ以テ開會ノ初トシ爾後毎年三月九月第二金曜日ヲ以テ開會ノ定日トス

第五條 此會議ハ每會一周日間開クヲ定ントス尤モ七日以内開會スルモ妨ケナシ

第六條 凡會議ハ事ヲ議スルノ權アリテ之ヲ施行スルノ權ナシ

第七條 本會ニ於テ決議ノ條件ハ別紙雛形ノ如ク決議書ヲ作り區長



ヲ經テ縣令ニ差出スヘシ其施行スルト否ナルトハ縣令之ヲ決スヘシ尤モ一般ノ成規ニテ區戸長限リ施行スヘキモノハ此限ニ非ス明  
治十年十一月丙第七十號ヲ以讚地ニ限リ區長ヲ大區長區戸長ヲ大  
小區長ト改ム

第八條 一旦况議ノ上許可ヲ得テ施行セシ事件ハ一周年間再議スル  
ヲ得ス

第九條 議員ヨリ議案ヲ出セハ先ツ其議可キ歟否ヲ衆議ニ付シ可  
ト決セハ議長其緩急ヲ謀リテ順次議決スヘシ

第十條 本會ニ於テ決議ノ上許可ヲ得テ施行セシ事件ト雖モ後日政  
府ノ公令アリテ抵觸スルコトアレハ速ニ改ムルモノトス

### 議員撰舉條例

第十一條 該小區事務取扱所ニ撰舉人名簿ヲ製シ置クヘシ

第十二條 撰舉人ハ其小區内ニ居住シ地面家作等ノ不動産ヲ所有セ  
ル戸主年齢二十歳以上ノ者タルヘシ尤モ戸主ト雖モ婦人ハ此數中  
ニ入ルヲ得ス

但當分町村會ノ議員人民ニ代リテ撰舉スルモ妨ケナシト雖モ成  
ル可ク本法ヲ用ユヘシ

第十三條 前條撰舉人他區ニ寄留スルモハ本人ノ見込ニ任セ名代人  
ヲ出スヲ得或ハ他區ノ人ニテ本小區内ニ前條ノ不動産ヲ所有スル  
者モ亦其者ノ見込ミヲ以テ名代人ヲ撰舉人中ニ加フルヲ得ヘシ

第十四條 瘋癲人及ヒ懲役一年以上ノ刑ヲ受ケン者或ハ身代限リノ

處分ヲ受ケ又ハ破廉耻甚ノ刑ニテ除族ニ處セラレタル者ハ議員タルハ勿論撰舉人タルヲ得サル者トス

第十五條 撰舉人増減變更アル節ハ戸長速ニ名簿ヲ改正スヘシ

(明治十年十一月丙第七拾號ヲ以テ讚地ニ限リ戸長ヲ小區長ト改ム)

第十六條 隔年八月一日ヲ以テ公撰ノ定日トス(明治九年九月乾第百二十號ヲ以テ第十六條中九月ヲ八月ト改正)

第十七條 其定日ニ當テハ撰舉人ハ公選入札法ヲ以テ毎小區一人ノ議員ヲ選舉スヘシ(明治十年十一月丙第七十號ヲ以テ讚地ニ限リ一人ヲ二人ト改ム)

第十八條 議員ニ舉ケラル、モノハ本小區ノ籍ニテ第十二條ノ如ク不動産ヲ所有スル戸主タルヘシ

第十九條 前條不動産ヲ所有セス又ハ戸主ニ非ラスト雖トモ一小區内人望アルモノニテ撰舉人十分ノ六以上議員タルヲ望ムモノハ縣令ノ許可ヲ得テ議員タルヲ得ヘシ

第二十條 議員タルモノハ左ノ職務ヲ兼ヌルヲ得ス

一 官吏區戸長學區取締組頭及巡查  
十年十一月丙第七十號ヲ以テ讚地ニ限リ組頭ノ二字ヲ削ル

二 官用備ノ者華族家令扶從

三 現今兵務ニアルモノ

第二十一條 前條ニ記載シタル職務ヲ受クルキハ直チニ退任シ本區戸長及ヒ大區會所ニ其由ヲ報告スヘシ  
十年十一月丙第七十號ヲ以テ本區戸長及ヒ大區會所ヲ本

區々務所及大區々務所ト改ム

第二十二條 議員撰舉ノ節ハ撰舉人一同其場ニ出席レ衆人ノ面前ニ於テ入札スヘシ

但本日欠席ノモノハ其度限リ除名スベシ

第二十三條 入札開封ノ時ヨ前條ノ如ク衆人ノ面前ニ於テ戸長之ヲ執行フヘシ (明治十年十一月丙第七十號ヲ以讚地ニ限リ第廿六條

第廿七條第廿八條第廿九條中戸長ヲ小區長ト改ム)

第二十四條 開札既ニ終レハ投票ノ多寡ヲ取分ケ誰某ニ幾枚ト云フ事ヲ逐一書留ムヘシ

第二十五條 前條書留メ終リテ其札數ト名前ヲ讀ミ上ケ入札最モ多キモノ則チ本區ノ議員タルヘシ

第二十六條 落札ノ者定マルキハ本區ノ戸長ヨリ速ニ本人ニ通達スヘシ

第二十七條 落札ノ者前條ノ報ヲ得レハ任ヲ受クル歟又ハ之ヲ辭スル歟否ヲ翌日迄ニ戸長ニ決答スヘシ尤モ撰舉ニ當ル者身體多病ナル歟或ハ止ムヲ得サルノ事故アルニ非サレハ其任ヲ辭スルヲ得ス

第二十八條 議員タルモノ其任ヲ辭セント欲スル時ハ其辭スル所以ヲ詳明ニ記載シ本區戸長ニ申立撰舉人ノ承諾ヲ得テ然ル後退任スヘシ

第二十九條 既ニ公撰ニ中リソノ任ヲ受ケタル者ハ左ノ誓約ヲ本區戸長ニ差出レ戸長ハ之ヲ衆選舉人ニ示シ且本會ニ差出スヘシ

某這阿我大區會議員ノ選ニ膺レリ某深ク 皇天上帝ニ誓ヒ清廉  
ト効勵トヲ以テ公平ノ議ヲ盡シ其責任ヲ負擔スヘシ敢テ誓フ

第三十條 議員既ニ定マリ誓約ヲ爲シ終レハ戸長ヨリ縣令並ニ區長  
ニ申出ツヘシ明治十年十一月丙第七拾號ヲ以テ讚岐國ニ限リ戸長  
ヨリ云々ノ十字ヲ小區長ヨリ縣令並ニ大區長ノ十一字ニ改ム

第三十一條 議員ノ任期ハ二ケ年タルヘシ

第三十二條 議員定數ハ一小區毎ニ壹員トス尤モ二十小區以下ノ大  
區ハ二十員ニ充ヌヲ法トス(明治十年七月丁第六拾九號ヲ以テ讚地  
ニ限改正 一議員定數ハ各小區人口三千口ニ壹員トス尤三千口未  
滿ノ數ハ千五百口ニ盈レハ壹員ヲ舉ケ缺クレハ之ヲ棄捐スヘシ  
但レ或十員ニ充タザル大區アテハ増員シテ該數ニ充タムヘシ

七其方法ハ棄捐セシ數ノ多分ナル小區ヨリ増員スヘシ

(明治十年十一月丙第七十號ヲ以テ第三十二條中讚地ニ限リ一員  
云々ノ九字ヲ二員トス尤十小區ノ八字ニ改ム)

第三十三條 議員欠員アレハ區長ヨリ戸長ニ報告シ臨時ノ公撰ヲ爲  
サシムヘシ(明治十年十一月丙第七十號ヲ以テ讚岐國ニ限リ戸長云  
々ノ十字ヲ小區長ヨリ縣令並ニ大區長ノ十二字ニ改ム)

議長以下諸役員之事

第三十四條 本會開場ノ報ヲ得議員來集スレハ先ツ投票ヲ以テ左ノ  
役員ヲ撰定スヘシ

但レ時トシテ區戸長之ニ當ルコトアルヘシ(明治十年十一月丙第七  
十號ヲ以テ讚地ニ限リ區戸長ヲ大小區長ト改ム)

議長 壹員

幹事 貳員

書記 貳員

第三十五條 議長ノ職掌ハ專ラ議事會場ノ規則ヲ掌トリ衆議ヲ判決  
スヘシ議長ノ席ニ於テ自己ニ論ヲ發スルヲ得ス

第三十六條 幹事ノ職掌ハ議長ノ指揮ヲ受ケ本會一切ノ雜事及ヒ會  
計ノ事務ヲ擔理シ又議長事故アリテ關席セハ其職ヲ代理スヘシ

第三十七條 書記ノ職掌ハ議員ノ演說ヲ筆記シ且本會一切ノ記錄ヲ  
管掌スヘシ

第三十八條 議長幹事書記自カラ辨論セント欲スルノ事アルキハ議  
席ニ列シテ演說スヘシ此場合ニ於テ議長ハ幹事ヲシテ代理セシメ

幹事書記ハ議長ニ乞フテ議列ニ就クヘシ若シ議長欠席セハ幹事議  
長代理中ハ他ノ幹事ヲシテ之ニ代ラシムヘシ

但區戸長此役ニ當ル時ハ總テ自己ノ論ヲ發スルヲ得ス

第三十九條 議案ニ付キ議員不審ノ件アリテ諮問スルキハ區長其答  
辨ヲ爲スヘシ(明治十年十一月内第七十号ヲ以讚地ニ限リ區長ヲ  
大區長ト改ム)

第四十條 議長幹事書記ノ任期ハ總テ貳ケ年タルヘシ

議事條款

第四十一條 大區會ニ於テ議事ノ要領ヲスル條款左ノ如シ  
一 大小區費ノ事  
二 民積ノ事

- 三 取締安寧及ヒ風教ノ事
- 四 學校及ヒ病院貧院等ノ事
- 五 物産ヲ興シ及ヒ荒蕪地ヲ開墾スル等ノ事
- 六 水陸運輸ノ便ヲ起ス事
- 七 道路堤防橋梁用惡水ノ事

議事規則

- 第四十二條 議長幹事書記ノ員定マレハ議長抽籤ヲ以テ議員ノ番號ヲ定メ會議中互ニ番號ヲ唱ヘ姓名ヲ稱スヘカラス
- 第四十三條 此議事會ハ日ノ長短ニ拘ハラヌ午前第九時ヲ發會ノ時限ト定ム

- 第四十四條 會議定日刻限ニ到リ總人員ノ半ヨリ多ク出席スレハ開會スヘン半ヨリ少ナキ時ハ延會スヘン
- 但至急議スヘキノ事件アレハ議長ノ特見ヲ以テ開ク事アルヘシ
- 第四十五條 本日欠席スル議員後日ニ到リ議スル所ノ事ハ否ト決ムルトモ議案ニ就キ別ニ述ル所ノ意見ヲ衆議員可トスレハ之ヲ筆記シテ縣令エ出シ示令ヲ請フヘシ
- 第四十六條 議員ハ自己及ヒ父母ノ病或ハ管廳ノ呼出レ等其他止ムヲ得サルノ事故アルニ非ラサレハ欠席スルヲ得ス但欠席ノ節ハ其事故ヲ書面ニ認メ幹事ニ差出スヘシ
- 第四十七條 議場既ニ整頓シ各議員席ニ列スル時議長先ツ議案ノ旨趣ヲ辨明シ且ツ先キニ示シタル議案ヲ朗讀シ條ヲ逐ヒ決議スヘシ

第四十八條 各議員ハ曾テ受クル所ノ議案ニ付キ考案ヲ書シテ衆中ニ朗讀シ或ハ演說シテ討論商議スヘシ若シ發論者二人以上ノ同時ニ起立スル時ハ議長番號ノ順序ヲ以テ發言ノ權ヲ與フ可シ尤モ一員ノ論辨中ハ其議論ヲ滿堂ニ洞達セシメンカ爲メ衆議員ハ默聽シテ片言ヲモ出サハル可シ

第四十九條 總テ議事ハ可否兩端ニ分テ衆說ノ歸スル處ニ隨テ決スヘシ若シ可否相同シキ時ハ議長之ヲ判決スヘシ

第五十條 議論數端ニ分レ可決シ難キ時ハ議員投票ヲ以テ兩三名ノ委員ヲ定メ見込ミテ取調サセ其意見ニ就テ可否ヲ決スヘシ但何等ノ議事ニヨラス議員ノ意見既ニ定ツテ其仕法未ダ附カサル時ハ本條ノ手續ニ依テ仕法ヲ附ケムヘシ

第五十一條 委員ノ意見猶衆議ニ協ハサル時ハ再ヒ前條ノ如クスヘシ

第五十二條 凡ソ會議中ハ宜レク倦怠ノ情狀アル可カラズ若シ規則ヲ犯ス歟又ハ醉人アル時ハ議長衆議ニ付テ退席セシム可シ

雜則

第五十三條 開場ハ某大區會所ノアル地ニシテ人家或ハ寺院等ヲ借リ受ケ假リニ大區會議所ト爲スヘシ尤某ノケ處ニテ開會スルノ旨届出ツ可シ

第五十四條 會議所ニ決議簿議案錄議員名簿ヲ製シ置クヘシ

第五十五條 決議簿ハ始メニ議案ノ大意ヲ掲ケ次ニ投名多寡ヲ算シ

以テ可否ノ決議ヲ記載シ議案録ハ始ニ議案ヲ載セ次ニ議員ノ答議  
ヲ綴リ決議簿ニ照シテ可否ノ主意明瞭タルヲ要シ議員名簿ハ議會  
ニ出席シタル議員ノ名ヲ記スルモノトス  
以上三簿冊ハ縣會ニ出シ檢閲ヲ受クルコトアルヘシ  
第五十六條 時トシテ官員此會ニ臨席スルコトアルヘシ  
第五十七條 議事ノ終始ハ擊板ヲ以テ報スヘシ  
第五十八條 議事ハ衆庶ノ縱聽ヲ許スヘシ  
但議場ノ都合ニヨリ人員ヲ限ルコトアルヘシ  
第五十九條 左ノ場合於テハ縱聽ヲ禁スヘシ  
一 議員四分ノ一以上同説ヲ以テ之ヲ禁ムコト請フ時  
二 議長自カラ之ヲ禁セントスル時

第六十條 本會ニ關スル諸費ハ總テ大區費タルヘシ  
區會議事上申書 明治十年五月甲第七十二號ヲ以テ  
決議上申書式改正

明治 年 月 日

第何大區々會

議長姓名印

問題

議員何拾何名

決議如左



實地施行ノ方法等アル者ハ詳ニ記載スルヲ則トス

以下幾件アルモ做之  
旧數件アルモノハ第一第二ノ文字ヲ加フ

右ノ通御坐候也

第何大區々長

明治 年 月 日

姓名印

縣令宛

○乾第百六號

八月二日

一般ノ風習ニテ金錢借用証書ニ債主ノ名宛ヲ記セス口入人取次人等ノ名宛ヲ記入レ債主ノ名義ヲ冒シ候ヨリ他日差纏ヲ生シ公裁ヲ受ルニ至リ其債主タル者判然致サ、ル儀往々有之候處今般讓証書ノ儀ニ付太政官第九拾九號公布ノ趣モ有之旁以証書ニ債主ノ名宛無之レテハ債主タルノ權利ナキモノタルハ明白ナル次第ナレハ從來口入人等名宛ノ証書所持罷在候モノハ必ス自己名宛ニ書改ツセ債主タルノ權利ヲ失ハサル様可致此段爲心得告諭候事

○乾第百七號

無輪廓

八月四日

松山裁判所設置ニ付自ラ消滅

○乾第百八號

八月十六日

許可ヲ得スレテ新ニ墓地ヲ設ケ或ハ區域取廣メ等禁セラル、ノ旨去  
ル明治六年太政官第三百五拾五號公布ニ依リ爾後追々伺出候向モ有  
之專ラ調査中ニ候處官有地ノ内舊藩縣ノ明許ナクテ埋葬致來候分  
モ新設同様此際可願出其永久民有トナレテ差支無之地所ハ夫々可及  
處分候得テ道路堤塘ハ勿論其他官林用地等ニ係リ候場所ハ埋葬不相  
成候條此旨可相心得尤是迄右様ノ場所ニ埋葬シ來レルモノハ更ニ他  
ノ個所ニ於テ共有墓地相擇ニ地種反別等委取調圖面相副可願出此  
段布達候事

○乾第百九號

八月十七日

今般管下温泉郡二番町勝山學校内へ變則中學校ヲ設立レ九月一日ヨ  
リ開業候條入學志願ノ者ハ別紙規則ノ趣相心得事務掛へ可申出此段

布達候事

變則中學校規則

第一條 今般設クル所ノ中學校ハ當分變則ヲ以テ授業法ヲ立ツルモノ  
トス

第二條 入學ヲ欲スル者ハ年齡ニ依リテ學科ヲ分テ滿十六年以下十  
四年以上ノ者ハ少年科ニ入ラレシメ滿十六年以上ノ者ハ成年科ニ入  
ラレムルヲ注トス

但滿十六年以下ノ者ヨリ其都合ニヨリ成年科ニ入ラレムルコ  
ソルヘレ

第三條 漢書英書并ニ洋算ヲ以テ各科少年科ノ課業トス凡ソ漢書ト  
成年科ノ課業トス云フモノハ

漢字ヲ以テ記スルノ書皆是ナリ  
故ニ翻譯書ノ類亦其中ニ在リ

第四條 少年科并ニ成年科ハ各三年ヲ以テ卒業ノ期限トス

但シ生徒ノ勤惰ニヨリ等差アリ

第五條 少年科ノ生徒ハ必ス漢英書并ニ洋算ヲ兼學セシム

第六條 成年科ノ生徒ハ第一種若クハ第二種ノ業ヲ專修セシム尤餘  
カフレハ之ヲ兼テシムモ妨ナシ且其洋算ハ之ヲ學フト否ラサルト  
各人ノ意ニ任ス

第七條 少年科ハ各課漢英算一日一時間ツ、通計三時間ノ授業トシ第  
一年後更ニ英書課ニ一時間ヲ増シ通計四時間ノ授業トス成年課ハ  
其專修ノ課業一日二時間或ハ三時間トス

第八條 少年科卒業ノ者ニシテ成年科ニ入ラント欲スル者ハ直ニ  
成年科ノ第三級ニ進マシム

第九條 各科課業表左ノ如シ

少年科

第六級 第一 前半年

第一リードル 國史學要 加減

理學初歩 乘除

第一リードル	國史學要	加減
理學初歩		乘除

ビ子ヲ 文典				
第五級	第 一 年 後 半 期	グ ラ ン マ ス ク ー ル 地 理 書	日 本 地 理 小 誌	少 數
萬 國 史		十 八 史 畧	四 則 雜 題	
第 四 級	第 二 年 前 半 期	米 國 史	元 明 史 畧	分 數
				諸 等

ヒウセルメ 英 國 史 畧	皇 朝 史 畧		
ヌエル 希 臘 史			
第三級	第 二 年 後 半 期	ヌ エ ル 羅 馬 史	續 皇 朝 史 畧
		ク エ ツ ケ ン ブ ス 小 第 理 書	續 國 史 畧
		ヤ ン ジ 小 政 休 書	續 々 國 史 畧
第二級	第 三 年 前 半 期		比 例

グワトリツナ 佛 國 史	通鑑學要	開法
ゴルトスミス 地 理 書		
ウニラント小 修 身 論		
第一級	第三 年 後半期	
ウエランド小 經 濟 書	文 章 軌 範	昇 術 雜 題
マルカム 日 耳 曼 史	作 文 和 文 漢 文	
ナトレール 万 國 史		

成年科 第一種		
第六級	第一 年 前半期	
シランマフク 地 理 書	シマツクニフ小 木 國 史	數 學
バーレー 万 國 史		
第五級	第一 年 後半期	
ニウセルヌ 英 國 史 畧	ミツナル 地 理 書	數 學
クエツケンブ 窮 理 書		

第四級		第一年前半期	
ゴウドリツナ	佛國史	ヒチラアナルナカル	典
ヤング大	政体書	クエツケンブス	米國史
第三級		第二後半期	
ナヤンザル	經濟書	スミス	英國史
マルカム	日耳曼史		數學
第二級		第三前半期	

第一級		第三後半期	
ウエラソド大	經濟書	ウエルソン	萬國史
ウエラソド大	修身論		
第二種			
キゾー	文明史	ウエラソド	性理書
ミル	リブレセンナーブガフウルメント		數學
第六級		第一前半期	

日本地理小志	國史學要	第五級	與地誌畧	泰西史鑑上篇	第四級	泰西史鑑中篇	泰西史鑑中篇
		第一 後半期			第二 前半期	登高自卑	
數學			數學			數學	

養生論	修身論	第三級	萬國新史	性法畧	第二級	泰西國法論	方法精理
		第二 後半期	立憲政体畧	經濟小學	第三 前半期	泰西政學	
			數學			數學	

第一級

第三  
後半期  
年

國法 汎論

万国公法

數學

立憲政体起立史

第十條 入學ハ毎月々曜日ヲ以テ定日トス

第十一條 入學ノ手繼ハ其父兄或ハ親族ノ保証書ヲ持參シ之ヲ事務掛ヘ願出ツヘレ

第十二條 既ニ入學ヲナレタル生徒ハ少年成年ノ兩科ヲ論セス總テ受業料トシテ毎月金拾錢ヲ納メシム

但事故アリテ事務掛ヘ届ケノ上一ケ月全ク欠席スル者ハ其月限之ヲ納ムルニ及ハス

第十三條 生徒ノ便宜ニ依リ寄宿セント乞フ者ハ事務掛教員ト協議ノ上之ヲ許スヘシ

但薪炭油等ノ費用ハ一切自辨タルヘシ

第十四條 寄宿ト外來トニ抱ハラヌ望ミノ者ヘハ焚出ノ賄ヲ爲ス尤其料トシテ當分一ケ月金壹圓八拾錢ヲ納メシム

第十五條 生徒課業ノ書籍英學ノ字書共ハ一切之ヲ貸渡スヘシ

但紛失損壞等アルキハ相當ノ償金ヲ納メシム

第十六條 一ケ年ヲ三分レ四ケ月毎ニ大試験ヲ行ヒ生徒ノ等級ヲ定



ム

第十七條 毎月々末小試験ヲ行ヒ生徒ノ席順ヲ定ム

第十八條 大試験後并ニ毎月々末勤情表ヲ出版シ生徒ヲシテ之ヲ其  
父兄ニ贈ラレム

第十九條 休業定日左ノ如シ

毎年一月一日ヨリ三日迄

一月三十日

新年 但三日ハ  
元始祭

孝明天皇祭

二月 祭日ハ豫メ  
定メカケル

二月十一日

祈年祭

紀元節

四月三日

四月廿二日

神武天皇祭

國幣社大祭

九月十七日

十一月三日

神嘗祭

天長節

十一月廿三日

十二月廿八日ヨリ卅一日迄

新嘗年

年末

毎大試験後一週間

暑中四週間

毎月日曜日土曜日

第二十條 毎月土曜日ハ休業ニ屬スト雖モ別ニ演説若クハ辨論會ヲ  
開キ生徒ヲシテ各自ニ論說ヲ述ヘ智識ヲ交換暢達セシム尤此會ハ  
入學セサル者モ亦之ニ出席スルヲ許ス

但演說辨論會規則ハ別ニ之アリ

○乾第百十號

八月十九日

明治十年一月甲第五號ヲ以違註罪目改定

違式罪目

第一條

九年十月十九日付番外ヲ以違式第一條中刪除  
并ニ第三十四條刪除ス

贗造ノ飲食物并腐敗ノ食物ヲ知テ販賣スル者

第二條

戲ニ牛ヲ闘ハス者

第三條

病牛死牛其他病死ノ禽獸ヲ知テ販賣スル者

第四條

身體ニ刺繡ヲナス者

第五條

外國人ヲ無届ニテ止宿セシムル者

第六條

戲ニ往來ノ常燈臺ヲ破毀スル者

第七條

掲榜場ヲ汚損シ并其圍ヲ破毀スル者

第八條

御用ト書タル小旗提燈等ヲ免許ナク猥ニ用ル者

第九條

往來又ハ下水外河中等緯ヲ民有ノ確証ナキ地ニ家作并孫庇ヲ自在ニ張出ス者

第十條

春書及ヒ其類ノ諸器物ヲ販賣スル者

第十一條

乘馬而猥ニ馳驅レ又ハ馬車人力車等ヲ疾驅レテ行人ヲ觸倒スル者

第十二條

人家稠密ノ場所ニ於テ妄リニ火枝ヲ玩フ者

第十三條

馬及ヒ車留ノ掲示ナル道路橋梁ヲ犯レテ通行スル者

第十四條

男女相撲并蛇遣ヒ其他醜體ヲ見セ物ニ出ス者

第十五條

川堀下水等ニ土芥瓦礫等ヲ投棄レ流通ヲ妨クル者

第十六條

他人ノ持場又ハ免許ナキ場所ニ魚梁ヲ設ケル者

第十七條

毒藥并激烈器物ヲ用ヒ魚鳥ヲ捕フル者

第十八條

他人ノ持場ニ入り筭或ハ葦藪ヲ斷リテク採取ル者

第十九條

堤ヲ壞テ又ハ斷リテ他人ノ田園ヲ堀ル者

第二十條

他人ノ墓碑ヲ毀損スル者

第二十一條

官有ノ山林等ニ禁制ノ榜示アルヲ犯セル者

第二十二條

官有或ハ他人ノ山林田畑ニ入植物ヲ損害スル者

第二十三條

神社佛閣ノ器物類ヲ破毀スル者

第二十四條

物品等ヲ以テ賭ケ勝負ヲ爲ス者

第二十五條

男女入込ノ湯ヲ渡世スル者

第二十六條

他人持場ノ海藻類ヲ斷テ刈採ル者

第二十七條

他人分ノ田水ハ勿論組合持ノ田水ヲ斷テ自恣ニ我カ田ニ引入ル者

第二十八條

道敷内ニ菜蔬豆類ヲ植或ハ汚物ヲ積ミ往來ヲ妨クル者

第二十九條

他村又ハ他人持場ノ秣或苗代草等ヲ斷テ刈採ル者

第三十條

婚姻祝儀等ノ節事故ニ托シ往來又ハ其家宅ニ妨害ヲナス者

第三十一條

工人舟子馬丁車夫及日雇稼ノ者等仲間ヲ結ビ他人ノ營業ヲ爲スニ故障スル者

第三十二條

神佛祭事ニ托シ人ニ妨害ヲナス者

第三十三條

火事場ニ關係ナクシテ乘馬又ハ消防ノ妨ヲナス者

註違罪目

第一條

禽獸ノ死スルモノ或ハ汚穢ノ物ヲ往來ニ投棄スル者

第二條

婦人ニテ謂レナク斷髮スル者

第三條

旅籠屋渡世ノ者止宿人名ヲ記載セス或ハ之ヲ届出サル者

第四條

往來筋ノ號札又ハ人家ノ番號名札看板等ヲ戲ニ破毀スル者

第五條

喧嘩口論及ヒ人ノ自由ヲ妨ケ且驚愕スヘキ噪鬧ヲ爲シ出セル者

第六條

往來常燈ヲ戲ニ消滅スル者

第七條

雞犬ヲ闘ハシメ及ヒ犬ヲレテ戯ヨ人ニ啖スル者

第八條

〔九年十月十九日付番外ヲ以註違第  
八條中删除同第二十六條但書追加〕

贗造ノ食物又ハ腐敗ノ食物及病死ノ肉類等ヲ知テ食スル者

第九條

荷車及人力車行逢フ節行人ニ迷惑ヲカケル者

第十條

荷車及人力車等並ヘ挽キテ通行ヲ妨ケル者

第十一條

酔ニ乘レ又ハ戯ニ車馬往來ノ妨碍ヲナス者

第十二條

水除杭ニ妨害ヲナレ又ハ之ヲ拔取ル者

第十三條

他人ノ竹木ニ妨害ヲナレ又ハ枝葉ヲ拾取ル者

第十四條

他人ノ植籬牆垣ヲ損害スル者

第十五條

渡船ニテ不當ノ賃錢ヲ取リ或ハ等閑ニ行人ヲ待シテ用便ヲ妨クル者

第十六條

往還ノ並木及ヒ苗木ヲ徒ニ害スル者

第十七條

渡舟橋梁ノ賃錢ヲ不拂シテ去ル者

第十八條

誤テ牛馬ヲ放テ他人ノ田圃及ヒ物品ヲ損害スル者

第十九條

猥リニ他人ノ爭論ニ荷擔スル者

第二十條

水車水碓等ニ妨碍サナス者

第二十一條

行人ニ強テ車馬駕籠等ヲ勸メ過言ヲ申掛ル者

第二十二條

神祠佛堂又ハ他人ノ垣壁等ニ樂書サナス者

第二十三條

遊園及ヒ路傍ノ花木ヲ折リ或ハ植物ヲ害スル者

第二十四條

往來筋ニ於テ輕業眼等ノ諸業ヲ爲レ行人ノ妨サナス者

第二十五條

養田水其外用水ニ妨害サナス者

第二十六條

夜中無提燈ニテ諸車ヲ挽キ又ハ乘馬スル者

第二十七條

但陸海軍ノ諸兵隊非常ノ警戒アルキハ勿論平日隊伍ヲ組ミ夜陰  
行進シ及定制アル徽章ノ服帽着用ノ節ハ單騎ト雖モ此ノ限ニ非

ヲス

馬車人力車荷車等ヲ往來ニ置キ行人ノ妨ヲナシ及ヒ牛馬ヲ街衢ニ於テ長手繩ニ繫キ行人ノ妨ケヲナス者

第二十八條

鹿忽ニ依リ人ニ汚穢物及ヒ石礫等ヲ抛棄セシ者

第二十九條

田園種藝ノ路ナキ場ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入ル者

第三十條

誤テ牛馬ヲ放テテ人家ニ入レシメシ者

第三十一條

雜魚海苔其他乾場ニ妨害ヲナス者

第三十二條

他人ノ魚梁等ニ妨害ヲナス者

第三十三條

他人ノ獵場ニ妨害スル者

第三十四條

行人ニ合力等ヲ申掛ル者

第三十五條

牧場外猥リニ牛馬ヲ放テ飼スル者

第三十六條

他人ノ獸畜類等ニ犬ヲ啖シ掛ル者

第三十七條



他人ノ墳墓等ノ供品類ヲ猥リニ毀損スル者

第三十八條

他人ノ曝曬ニ妨害ナス者

第三十九條

山林原野ニテ徒ラニ火ヲ焚ク者

第四十條

總テノ標柱ニ牛馬ヲ繫中或ハ破毀スル者

第四十一條

田畑中ニ瓦礫竹木等ヲ投入ル者

第四十二條

往來並米ノ枝ニ古草鞋等ヲ投掛ル者

第四十三條

市中ニ於テ裸体袒裼等ノ醜體ヲ顯ハシ往來スル者

第四十四條

乞食ニ金錢食物等ヲ與フル者

第四十五條

市中往來筋ニ於テ便所ニアラサル場所へ大小便ヲナス者

第四十六條

市中往來筋ニ木石薪炭其他雜具等ヲ指置キ妨ケヲナス者

○乾第百十一號 無輪廓 八月十九日

本年七月乾第九十八號ヲ以酒類醸造并請賣營業免許ノ本人ハ勿論該家一戸籍ノ者ヲシテ請賣爲致候分ハ別段鑑札申請ルニ不及旨及布達

候處同上ノモノニシテ右布達前既ニ鑑札願請居候モノハ來ル九月十五日迄ニ必ス鑑札還納可致此段布達候事

○乾第百十二號 八月二十一日

今般第六大區温泉郡松山二番町ニ於テ本縣師範學校ヲ設ケ規則別紙之通相定候條爲心得此段布達候事

### 愛媛縣師範學校規則

#### 第一章

##### 學校ノ主意及編制

第一條 本校ハ小學訓導ヲ陶冶成育スルヲ主意トシ二種ノ學舎ヲ以テ編制ス一ヲ本校及ヒ各大區傳習所トシ一ヲ附屬小學校トス

第二條 本校ハ師範生徒ヲシテ小學師範學科ヲ研究セシムル所ナリ

第三條 各大區傳習所ハ目下教育普及ヲ要スルカ爲メ本校ノ訓導ヲ派遣シ近傍諸校ノ教員ヲ薰陶スル所ナリ

第四條 附屬小學校ハ師範生徒ヲシテ既ニ學ビ得レ所ノ學術技藝ヲ此校ノ小學生徒ニ就テ實地ニ演習セシムル所ナリ

#### 第二章

##### 通則

第一條 本校生徒ハ試檢合格ノ者ニ非サレハ入學ヲ許サス

第二條 生徒ノ募集ハ其期ニ先テ其人員及ヒ入學期日ヲ廣告スヘシ

第三條 生徒ハ年齡十六年以上四十年以下ヲ限リ品行方正體質健全

ニシテ普通ノ書ヲ講讀シ得且畧算術ヲ學ビ得タルモノトス

第四條 體質虛弱或ハ種痘天然ヲ經サルモノハ入學ヲ許サス

第五條 入學ヲ願フ者ハ附錄第一第二兩號ノ通學區取締或ハ本人從來ノ行狀ヲ熟知スル者ノ保証狀及ヒ學術賞罰等ニ關涉スル履歷書ヲ以テ其期日迄ニ本校ヘ申出ツヘレ

第六條 入學試験ハ讀書講議作文算術筆跡等トシ且體質ヲ検査ス

第七條 試験ノ格ニ合ヒ入學ヲ許ス者ハ附錄第三第四兩號ノ證書ヲ出スヘレ

第八條 新ニ入學セル者ハ學業ノ優劣ニ應シ各級ニ編入ス

第九條 生徒ハ各員一ヶ月學資金三圓五拾錢ヲ給ス

第十條 學資金ハ入學ヲ命スルノ日ヨリ日ヲ計リテ給シ卒業證書ヲ附與スルノ翌日ヨリ給セス且疾病等ニテ歸郷下宿スルモノハ其本日ヨリ給與ヲ止メ歸校ノ日ヨリ給スルヲ法トス

但シ冬夏休業中ハ勿論其他疾病ノ爲メ下宿又ハ他ノ病院等ニ入ルヲ指示スル者ハ此限リニ在ラスト雖モ三十日後ハ給セス

第十一條 學業ニ關スル書籍ハ凡テ之ヲ貸與ス

第十二條 生徒ハ半途ニシテ退學スルヲ許サス

第十三條 生徒在學ハ二ヶ年ヲ限リトシ全課卒業ノ上ハ卒業證書ヲ

附錄第五  
號書式 附與ス

但學力俊秀ニシテ進歩速カナル者ハ此限ニアラス

第十四條 全課卒業ノ者ハ管内小學訓導補以上ヲ命ス

但本人在勤ノ學校ニ望ミアル者ハ學區取締ニ所談シ之ヲ定ム

第三章

教則

第一條 教科ヲ分ケ四級トシ每級ヲ六ヶ月間ノ修業ト定ム

第二條 每月末恒例試験ヲ爲シ其點數ノ多寡ニ依リテ生徒ノ坐次ヲ點涉ス

第三條 每級卒業試験ヲ遂ケテ進級セシム格ニ合ハサル者ハ尙原級ニ留ム

第四條 全科卒業ノ前大試験ヲ爲シ合格ノ者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五條 修業ハ毎日五時間ヲ限ルト雖モ諸科復習及作文習字体操等ハ此限ニ非ス

第六條 學科課程左ノ如シ

第四級

地理學

日本地理

日本地誌要畧

中學

日本史

國史學要  
皇朝史畧

文學

方法  
習字  
作文

文章軌範  
日本文典

物理學

力水氣

物理全志

數學

算術

修身學

口述

修身論

第三級

地理學

萬國地理

輿地誌畧

史學	萬國史	十八史畧 萬國通史
文學	文法作文 習字	文章軌範 日本文典
物理學	熱光電	物理全志
生理學	生理試問	人身窮理
博物學	博物	具氏博物學
數學	算術	
第二級		
書學	直曲線 形書線 幾何書法	圖法楷梯
化學	無機化學	化學篇

經濟學	大意	經濟論
主簿學	單記	單記法
教育論	教育論旨	學校通論
授業法		
數理學	代數學 幾何學	
第一級		
實地演習授業		
附錄		
第一號書式	用紙美濃紙	

明治十年九月甲第百拾三号ヲ以附錄ノ内  
第壹號第三號書式中改正第六号書式增加

當縣士族平民誰子弟

姓名

年齡

右之者儀貸費生ヲ以御校<sup>校</sup>入學志願之趣申出候間從來ノ行狀相糺候所不都合<sup>私</sup>ノ廉無之ニ付別紙履歷書持參爲致申候可然御取計有之度依テ保証狀差出候也

學區取締

何ノ誰印

或ハ何大區何小區何國何郡何村

何番地居住或ハ寄留

士族平民

年月日

証人

姓名印

受援縣

伊豫或  
ハ譜岐 師範學校

御中

第二號書式 用紙美濃紙

當縣士族平民誰子弟

生所何<sup>府</sup>縣何大區何小區何國何郡何村

姓名

何年何ヶ月

宿所同上何番地住居或ハ寄留

年月日何所誰ニ就キ何學科修業算術<sup>和算</sup>洋算<sup>和算</sup>何々修業及ヒ出處進退賞罰

等ニ關スル履歷ヲ詳細ニ記載ス

年月日

第三號書式 用紙美濃紙

私儀小學訓導タルヘキ志願ヲ以テ御校ニ入學御許可相成候付テハ總  
テ御規則之通相守可申依テ證書差出候也

第何大區何小區何國何郡何町何番地

士族平民

年月日

本人 姓名印

年齡

右之通相違無之候也

父母或ハ

第何大區何小區何國何郡何町何番地

士族平民

証人 姓名印

愛媛縣

伊豫或ハ讚岐 師範學校

御中

第四號書式 用紙証券界紙

士族平民誰子弟

姓名

何年何ヶ月

右今般御校ニ入學御許可相成候ニ付テハ若入學中病死其他百般ノ事  
故出來候時ハ本人身元悉皆引受可申依テ爲後証如件

第何大區何小區何町

何番地住居或ハ寄留

何府  
縣族籍

証人

姓名印

年月日

愛媛縣

師範學校

御中

第五號書式 用紙文部省証書紙

愛媛縣  
師範學  
校之印

族籍

姓名

年齡

小學師範學科卒業候事

年月日

愛媛縣師範學校

第何號

第六號書式 用紙証券界紙

証



今般愛媛縣伊豫或ハ讚岐師範學校へ貸費生ヲ以入校御許可相成入校中爲  
學費月々金何程宛御貸渡被成下候致致領承候然ル上ハ卒業派出ノ後  
御規則堅ク相守無相違還納可仕候萬一相滯候節ハ証人共相引受本人  
不納金員速ニ代償可仕候依テ証書差出候也

第何大區何小區何國何郡

何村何番地

士族或ハ平民

本人 姓名印

同上

同上

年月日

愛媛縣

伊豫或ハ  
讚岐 師範學校長

誰氏名殿

此ノ證書ニ限リ證人ハ必ス戸主タルヘク且本人證人共實印ニ相  
違ナキヲ保スル爲メ戸長ノ證書ヲ添ヘ差出スヘシ

第四章

明治九年九月廿二號  
第百二拾二號ヲ以第四章以下追加

証人 姓名印

同上

同上

証人 姓名印

教場規則

- 第一條 教場ニ於テハ萬事教師ノ指示ニ從フヘシ
- 第二條 教場ノ閑噪タルハ授業ノ妨害ナリ勉テ穩靜ナルヘシ
- 第三條 教師指令ノ外ハ猥リニ出入スヘカラス
- 第四條 喫烟或ハ談話スヘカラス又猥ニ異見ヲ述フヘカラス
- 第五條 休息ノ時間ハ點鐘毎ニ五分ト定ム
- 第六條 毎時ノ始メ五分ノ柝ヲ報セハ直チニ各級整屯所ニ到リ席順ヲ正シテ屯集停止レ教師ノ先導ヲ待ツヘシ

第五章

學年

學年ハ八月十六日ニ始リ七月十五日ニ終ル而テ八月十六日ヨリ二

月十四日迄ヲ前半期トシ二月十五日ヨリ七月十五日迄ヲ後半期ト  
ス

第六章

休日定式

- |       |     |       |
|-------|-----|-------|
| 絶元節   | 天長節 | 神武天皇祭 |
| 孝明天皇祭 | 神嘗祭 | 新嘗祭   |
| 國幣社大祭 |     |       |

夏期七月十六日ヨリ八月十五日迄冬期十二月廿六日ヨリ一月七日  
迄トス

第七章



# 愛媛縣師範學校學科表

前 一 年

第 一 期

第 二 期

第 三 期

一 年

後 一 年

科 名	第 一 期		第 二 期		第 三 期	
	週 每	課 目	週 每	課 目	週 每	課 目
地 理 學	三 時	日 本 地 理 要 畧	三 時	萬 國 地 理 興 地 誌 畧		
史 學	六 時	日 本 史 皇 朝 史 畧	六 時	萬 國 史 萬 國 通 史		
文 學	六 時	文 法 日 本 文 典	三 時	文 法 日 本 文 典		
物 理 學	六 時	力 水 氣 學 物 理 全 志	六 時	電 光 熱 學 物 理 全 志		
生 理 學			三 時	生 理 試 問 人 身 究 理		
博 物 學			三 時	博 物 學 具 氏 博 物 學		
化 學			三 時	無 機 化 學 化 學 編		
經 濟 學			三 時	經 濟 大 意 經 濟 論		
教 育 論			二 時	教 育 論 旨 學 校 通 論		
講 學			二 時	直 曲 線 幾 何 講 法 圖 法 階 梯		
主 簿 學			二 時	單 記		
授 業 法			十二 時	授 業 法		實
修 身 學	三 時	口 述 修 身 論				
數 學	六 時	算 術	六 時	代 數 幾 何 學		諸
諸 科 復 習						
體 操						



書籍規則

- 第一條 課業用ノ書籍ハ貸與スヘシ
- 第二條 書籍出納ハ毎土曜日課業後一時間トス
- 第三條 書籍借用ハ証書ヲ認メ調印シテ監事ニ出スヘシ
- 第四條 借用ノ書籍紛失毀損スルハ直ニ其趣ヲ届ケ原價ヲ以償還スヘシ
- 第五條 借用書籍ヲ轉貸シ又ハ校外ニ携出スヘカラス
- 第六條 新聞縦覽所ヲ設ケ布告報告新聞縦覽ヲ許スヘシ他ニ携出スヘカラス

第八章

舍則

第一條 入舎中ハ都テ監事ノ指揮ヲ守リ舎長ノ指示ニ從ヒ常ニ告示ノ旨趣ヲ体レ行狀言語ヲ慎ミ互ニ信義ヲ以テ交ルヘシ

第二條 晨起就褥喫飯外出入浴等其時限ヲ確守スヘシ

時間表左ノ如シ

	晨起	朝食	散步	休日外出	入浴	晚食	褥就
二月一日ヨリ 同月終マテ	七時	自八時 八時半	自三時 五時	自七時 六時	自三時 五時半	自五時 五時半	十時
三月一日ヨリ 四月十五日迄	六時	自八時 八時半	自三時 五時	自七時 六時	自三時 六時	自五時半 六時	十時
自四月十六日 七月十五日迄	五時	自六時 六時半	自四時 六時	自五時 七時	自三時 六時	自六時半 六時半	九時

自八月十六日迄 九月十一日迄	五時	自六時 六時半	自三時 五時	自五時 六時	自三時 六時	自五時半 六時	九時
自九月十二日迄 十月卅一日迄	六時	自八時 八時半	自三時 五時	自六時 六時	自三時 五時	自五時 五時半	十時
自十一月一日迄 一月卅一日迄	七時	自八時 八時半	自三時 五時	自七時 六時	自三時 五時	自四時半 五時	十時

第三條 外出ノ節ハ必ス名札ヲ裏返シ歸ルキハ又是ヲ表掲スヘシ

第四條 臨時外出ヲ欲スル者ハ其趣意ヲ監事ニ告ケ指揮ヲ受クヘシ  
第五條 外來人應接ハ必ラス面謁所ニ於テスヘシ

第六條 病氣ニテ欠課スル者ハ同室ノ者ニ託シ書面ヲ以テ舍長ニ届出ツヘシ

但三日以上ニ及フ者ハ醫師ノ證書ヲ添ヘ更ニ届出ツヘシ

第七條 病氣ニテ欠課ノ者ハ醫師ノ證書ヲ得ルニ非シハ外出ヲ許サズ

第八條 舍中ニ於テ禁遏スル條件左ノ如シ

- 一 金錢貸借ヲナス事
- 一 食物ヲ烹炙スル事
- 一 猥リニ集會シテ戲謔雜話レ或ハ小説稗史等ヲ讀ミ或ハ碁雙陸等ヲ弄フ事
- 一 猥リニ他室ニ往來シ人ノ勉強ヲ妨クル事
- 一 衣服身体ニ垢シ或ハ室内ヲ不潔ニシ物品ヲ亂雜ニスル事
- 一 點燈ノ儘寐ニ就ク事
- 一 夜中音讀ヲナス事

- 一 午後七時ヨリ他室ニ入ル事
- 一 他ニ止宿スル事
- 一 學事ノ討論ト雖モ高聲ナル事
- 一 塙塀及ヒ屋上ニ登リ又ハ校内ノ樹木ヲ伐折スル事
- 一 食堂及ヒ浴室中襟道ノ事
- 一 小使ヲ粗暴ニ使役スル事
- 一 小使ヲ私ニ門外ニ出ス事

第九章

罰則

- 第一條 過失ノ微ナル者ハ譴責ニ止ム
- 第二條 校則ニ觸ル、ト雖モ事情原諒スヘキ者ハ三日以内門外散歩

ヲ禁ス

- 第三條 自己ノ怠慢ヨリ校則ヲ犯ス者一週以内門外散歩ヲ禁ス
  - 第四條 校則ヲ犯シ風儀ニ害アル者二週以内門外散歩ヲ禁ス
  - 第五條 成業ノ目的ナキモノハ退學セシム
  - 第六條 器械書籍等ヲ破毀スルモノハ輕重ヲ以テ論シ且物品ノ原價ヲ償還セシム
- 處罰ノ法
- 第壹條 生徒犯則ノ者アラハ舍長陪審トナリ監事其事由ヲ糾シ然ル後ニ學校長之ヲ處分スヘシ
  - 第貳條 退學セシムヘキ者ハ學校長ニテ處分ノ後狀ヲ具ヘテ縣廳ニ開申スヘシ



第三條 處罰ノ疑義ニ涉ル者ハ時アリテ縣廳ニ稟議シテ處分スルヲ  
アリ

第四條 生徒處罰中ハ其勸怠表中行狀ノ部ヲ零點トス

○乾第百十三號 八月廿一日

明治十年九月甲第百拾号ヲ以師範學校及小學教員月給ノ儀改正

○乾第百十四號 八月廿八日

神社寺院へ氏子檀中ノ者ヨリ神酒料神供料及ヒ先祖祠堂金回向料等  
種々ノ名義ヲ以テ寄附致置候山林田畑金穀等有之處寄附人或ハ他人  
ノ名受ニ致置又ハ金穀等世話人講中等へ預ケ置候廉雙方ヨリ證書取  
替シ不致候ヨリ轉免ノ際紛議ヲ生シ不都合不勘候條自今動産ハ預ケ  
主預リ主共相互ニ確證取替シ不動産ハ地券狀受取後日紛議無之様致

置可申此段爲心得神官僧侶ノ者へ布達候事

○乾第百拾五號 九月一日

香川縣被廢當縣へ被併候旨御達相成候條此段布達候事

○乾第百拾六號 九月二日

明治八年三月乾第百拾三號町村會議事心得第三條へ追加

○乾第百拾七號 九月六日

神社祭典神輿渡御ノ儀ニ就テハ七年九月乾第百九拾四號布達ノ趣有之  
候所中ニハ今以舊慣ヲ不脱神輿ヲ以テ門戸ヲ毀傷シ或ハ庇障ヲ破壊  
致シ候様ノ向モ有之趣相聞候右ハ第一敬神ノ御主意ニ悖戾シ以ノ外  
ノ事ニ候仍テ自今神輿昇輿丁ハ雇夫ニテ必四五名ヨリ七八名ヲ限リ  
儀衛行列ヲ嚴肅シ聊モ猥リケ間敷儀無之様可致此段布達候事

○乾第百拾八號

九月九日

變則中學職員左之通相定候條爲心得此段布達候事

職名	月給
總教	五十圓以下 三十一圓以上
司教	三十圓以下 六圓以上
助教	五圓以下 三圓以上
助教試補	貳圓以下
事務掛	二十圓以下 六圓以上
事務掛補助	五圓以下 三圓以上

○乾第百拾九號

無輪廓

同日

秩祿公債証書本年分利子金來ル十一月一日後拂渡相成ニ付所持人ノ混淆セサル爲メ十月一日ヨリ拂渡濟迄ハ証書買賣讓渡等一切可相見合此段秩祿公債証書所持ノ者へ布達候事

○乾第百貳拾號

同日

明治九年七月乾第百五號大區會假規則中改正

○乾第百貳拾壹號

九月十一日

灼艾ハ古來ヨリ病治ノ一部分トナリテ全國其治ニ因ラサルモノ殆ソト稀ナリト雖モコハコレ草根木皮ノミヲ以醫藥トスルノ古法ニ屬スルモノニシテ今ハ然ラヌ西洋醫法ノ世ニ大ニ開クルヨリ隨テ彼灼艾ノ如キハ全ク其功驗ナキニ似タリ然レモ老人或ハ脆弱ニテ血氣欠乏

ノモノ時々之ヲ施スニ或ハ快キヲ覺ユト謂サルヲ得ス是全ク慣習ノ  
久シキニヨルモノニシテ人身ノ健康ヲ補助スルノ良具ニアラス今  
、后好シテ之ヲ爲サ、ルハ勿論無知ノ小兒ニ押ツケテ施スハ却テ障  
害ヲナスヲ甚レキ趣醫員ノ明言スル所ナレハ能クコノ意ヲ了辨スヘ  
ク且又自今初生ノ小兒ニ新タニ灸點ヲ下スヲ欲スルモノハ其患狀ヲ  
詳カニシテ醫務取締ニ開申シ差圖ヲ受ヘク此段告諭候事

○乾第百貳拾貳號

九月十三日

明治九年八月乾第百拾二號師範學校規則へ追加

○乾第百貳拾三號

九月十四日

今般香川縣合併ニ付全管大區名稱左ノ通改正候條此段布達候事  
〔明治十年二月内第二十二號同二十三號豫讃大小區畫布達有之ニ付

改正大區名稱畧之)

○乾第百貳拾四號

同日

酒類讓造並請賣營業免許鑑札ノ儀ハ甲年十月一日ヨリ乙年九月三十  
日迄一期中免許ノ者ニ付當明治九年一期中尙引續營業致シ度モノハ  
來ル十月三十一日迄ニ營業税金相添鑑札差出候へハ檢査ノ上鑑札付  
與可致若シ十月一日以後廢業ノ者ハ屆書相添十月中鑑札還納可致此  
段酒類營業人共へ布達候事

乾第百廿五號無輪廓明治九年九月十六日

本年太政官第百二號ヲ以テ來明治十年東京府下上野公園於テ内國勸  
業博覽會開設ノ儀公布相成尋テ内務省甲第三十壹号ヲ以該會諸規則  
布達有之候ニ付テハ管内所産ノ物品及ヒ製造物等出品候者ハ右規則

ニ照準レ速ニ見込書ヲ以該小區戸長迄差出シ置クヘシ且出品人ノ内  
資金ノ不充分ヨリ其意ヲ達セサル者モ可有之右等ノ向ヘハ情實取糺  
ノ上縣稅ノ内ヲ以多少資金貸與候條出品原價書或ハ製造費用等詳細  
書認メ見込書ニ差添ヘ置キ不日官員巡回ノ節調査可受此段布達候事

○乾第百貳拾六號

九月廿一日

從來市郷各社祭典ノ砌期ニ先タツ數町幼少男女ヲ募集レ或ハ歌舞ヲ  
教ヘ或ハ演劇ヲ習ハレ若干ノ金錢ヲ抛ツテ毫モ愛惜セヌ奔競ノ態恰  
モ狂人ノ如キ者往々有之趣右ハ僅ニ一二日歡樂ノ爲無益ノ時日ト財  
用トヲ費ノミカ到底少年ヲシテ淫冶放蕩ノ氣風ヲ養成セシメ其弊害  
誠ニ小ヤナラス候條自今父兄タル者ハ宜レク是非得失ノ在ル所ヲ詳  
辨レ斯歌舞ヲ競フノ熱心之ヲ就學ノ督促ニ移シ演劇ニ供スルノ金錢

之ヲ學資ノ寄附ニ易ヘ務メテ愛子愛弟終身ノ利益ヲ謀圖可致此段諭  
達候事

○乾第百貳拾七號

九月廿五日

當縣廳於テ施行ノ動植物試驗表及ヒ人民於國益ノ偉事ヲ發起或ハ勸  
業寮勸業報告ノ内人民ニ要ノ事件ヲ採萃纂輯レ之レヲ愛媛縣勸業雜  
報ト號レ自今愛媛新聞ニ掲載廣告候條此段豫ヲ布達候事

○乾第百貳拾八號

同日

十年二月丙第二十二號ヲ以伊豫國大小區滿布達ニ付畧之

○乾第百貳拾九號

九月廿六日

明治九年松山裁判所設置ニ付自消滅

○乾第百三拾號

無期

九月廿八日

今般香川縣合併相成候處凡兩縣治ノ大綱ハ固ヨリ異ナルアルナレト  
雖モ其次第節目ニ到リテハ少シク其差ナキヲ免カレス依テ甲乙ヲ校  
量レ其簡良ナルハ之レヲ採リ其繁苛ナルハ之レヲ去リ漸次拔萃レテ  
勤メテ一定ノ良法ニ因ラメントス故ニ今后文書ノ出納ヲ始メ辭令  
違書等從來ノ手續ニ抵觸候儀有之候共其都度必ラス相違セサル儀モ  
可有之此段豫カレン布達候事

○乾第百三拾壹號 無異 十月三日

來ル明治十一年佛國巴里府於テ萬國大博覽會開設ノ儀本年第百拾壹  
號ヲ以テ公布相成候ニ就ハ明年內國博覽會へ出品スヘキモノ、中後  
來輸出ノ見込アル物品ハ一層精巧ヲ盡シ該會閉場後撰擇拔萃被會ノ  
出品ニ適當致スヘキ様兼テ其形狀模様等總テ周密意匠ヲ凝シ製造

候様今般內務省ヨリ達相成候條諸品物最モ善良ヲ主トシ精々注意ヲ  
加ヘ出品可致此段諭達候事

○乾第百三拾貳號 十月五日

明治十年五月甲第七拾六號ヲ以生糸鑑札廢止ニ付本條廢止

○乾第百三拾三號 十月九日

松山裁判所設置ニ付自カラ消滅

○乾第百三拾四號 同日

同上

○乾第百三拾五號 十月十九日

十年二月甲第十九號ヲ以達有之ニ付畧之

○乾第百三拾六號 十月廿一日

戸主幼年又ハ婦女等ニテ後見人アル者不動産ハ勿論動産ノ賣買讓渡及ヒ書入質等後日ノ証書ヲ要スルモノハ後見人ノ外戸主ノ親族三名以上必連名候様可致此段布達候事

○乾第百三拾七號 無輪廓 同日

管下讚岐國鞆足郡炭所東村伊豫國宇摩郡柴生村下山村浮穴郡吉野川村宇和郡内拾九大區三小區ヨリ八小區邊間々疫牛有之候旨届出候ニ付讚岐國ハ本年甲第三拾九號伊豫國ハ同乾第六拾三號ヲ以及布達候通嚴重豫防可致一時姑息ノ情ヨリ時機ヲ失ヒ疫毒蔓延候テハ不容易次第ニ付劇症ト見留候ハ、速ニ致撲殺其旨可届出此段布達候事

○乾第百三拾八號 十月廿三日

從來ノ習慣ニテ二三男ニ別苗字ヲ附スルヨリ一家族ニテ其ノ戸主

ト苗字ヲ異ニスルモノ往々有之自然別戸ノ姿ニ相見ヘ不都合ニ候條速ニ戸主同一ノ苗字ニ引キ直レ其旨可届出此段布達候事

○乾第百三拾九號 無輪廓 十一月一日

熊本縣士族暴舉ニ付内務省ヨリ左ノ通電報有之候條爲心得此段布達候事

クマモトケン、レゾク、ヒヤクヨメイ、ボウドツ、  
サイサイ、ウナトリ、ノコリスニン、ニゲタリ、  
フワツ、ホバク、ナンタイスマレ、ソノサンカ、  
ワンモン、アンド、サヌベレ

○乾第百四拾號 十一月四日

山口縣士族暴舉ニ付内務省ヨリ左ノ通電報有之候條爲心得此段布達

候事

去月廿八日山口縣士族前原一誠横山俊彦奥平謙輔等百餘名徒黨集合  
セレニ付縣廳ヨリ解散ヲ命レタル處遂ニ兵器ヲ攜ヘ貢金ヲ奪ヒ石州  
路ニ向ケ脱走セレ旨電報アリ自然右賊徒各地ヘ散亂或ハ潛匿スルモ  
難計ニ付嚴密搜索ヲ遂ケ捕縛スヘレ

○乾第百四拾壹號

無輪郭

同日

本年六月太政官第八十二號及第九十四號ヲ以テ西洋形商船々長以下  
技術試験ノ儀公布相成候ニ付東京ニ於テハ去ル十月ヨリ試験開場以  
後毎月第一第三水曜日ヲ試験日ト相定候ニ付志願ノ者ハ東京最寄ヘ  
回船等ノ都合ニ寄前兩號公布ニ照準シ右定日一日前姓名履歴等ヲ記  
シタル願書ヲ以驛遞察ヘ可願出且大坂ニ於テハ本月ヨリ開場尙追々

ハ其他ニ於テモ時宜ニ寄開場スヘキ旨豫テ同察ヨリ通知モ有之候處  
大坂ノ儀ハ同察ノ都合ニ依リ神戸郵便局ニ於テ本月廿三日ヨリ十二  
月廿五日迄試験開場ニ付試験ヲ受メキ者ハ其場所々々ヘ可願出旨今  
般重テ報知有之候條此段布達候事

但試験願書式神戸ノ分ハ同所郵便局ヨリ相渡候ニ付前以同局ヘ受  
取方可申出候事

○乾第百四拾貳號

無輪郭

十一月十日

縣下第十三大區内ニ於テ傳染熱病流行致候旨病院収養館ヨリ届出  
候ニ付別紙豫防法ノ通相心得精々可致注意此段布達候事

別紙

凡ソ熱病ノ原因タルヤ内外二部ノ別アリ其内部ニ屬スルモノハ身体

ノ虚弱ト腸胃ノ疾患アルニテ皆能ク此病ニ感受レ易レ其外部ニ關スルモノハ衣食住ノ不長或ハ患者ノ尿尿其他池沼溝渠等ノ汚水又ハ肥料動植二物ノ腐敗ヨリ生スル蒸發氣ノ類ニ出ツ今茲ニ豫防ノ大畧ヲ示スコト左ノ如シ

一新鮮ノ滋養食物ヲ撰ミ適度之ヲ食シ井水如クハ流水共ニ清淨ヲ擇ンテ飲用スヘシ

一家屋ヲ清潔ニシテ時々戸牖ヲ開ラキ大氣ヲ流通シ近傍ニ汚水ノ溜溜及ヒ腐敗物アルハ速ニ之ヲ流通除去スヘシ

一如レ此症ニ罹ル患者アルハ速ニ醫療ヲ加ヘ且ツ他人へ傳染セサル様注意スヘシ

一如レ患者ノ尿尿ハ成ルヘク便器ニ取テ之ニ石炭酸或ハ硫酸鉄溶液

ノ如キ藥劑ヲ注ヤ然ル后之ヲ捨ツヘシ必ス健康ノ者ト圖所ヲ混一ニスヘカラス自然止ヲ得ヌ之ヲ混一ニスルヤハ患者ノ尿尿ニ前條ノ藥劑ヲ注入レ以テ其病毒ヲ滅除スヘシ

一如レ患者ニ關レタル衣服食器ハ勿論一切ノ器具等ニ至ル迄他人ト流用スヘカラス其他亞硝酸加斯ヲ室内ニ蒸發セシメ或ハコロールカルキヲ器内ニ貯ヘ之ヲ室内ニ安置レ或ハ稀薄石炭酸水ニ稀薄シタルヲ注キ室内氣中ニ含ム所ノ病毒ヲ滅消レ以テ傳染ノ憂ヲ免ルヘシ

○乾第百四拾三號

同日

管下松山ニ設ク所ノ師範學校名稱ノ儀自今愛媛縣伊豫師範學校ト相唱ヘ候條爲心得此段布達候事



○乾第百四拾四號

同日

士族タルモノハ其戸主家族男女ヲ間ハス都テ伴坐敷藝娼妓營業及ヒ芝居役者手踊リ手ソマ淨瑠璃其他音曲等諸游藝營業ハ不相成筈ニ候條是迄營業免許鑑札附與有之分ハ速カニ返納可致候尤管絃ヲ教授レテ世計ヲ爲ス等ノ類ニシテ他ノ翫弄ニ供セサル分ハ詮議ノ上可差許候條更ニ出願ノ上免許鑑札可申受此段士族へ布達候事

○乾第百四拾五號

十一月十三日

松山裁判所へ事務引繼迄民事詞訟及ヒ勸解共新訴ニ限リ明治九年十一月十四日ヨリ受理不致候條此段布達候事  
但期限ニ管スル民事詞訟ハ此限ヨ非ス候事

○乾第百四拾六號

無輪廓

同日

過日熊本縣士族暴動ニ付九州筋所々不穩候處夫々御征討相成賊徒潰走巨魁自盡全ク平定ニ至リ且又同時山口縣士族ノ内數百名不良ノ舉動有之候處是又速ニ御處置相成渾テ潰散レ賊魁前原一誠外六名根縣出雲國神川郡宇籠港ニ於テ捕縛レ其他自盡等無數有之全ク鎮定ニ及海陸軍共追々凱旋相成候趣報知有之候條爲心得此段布達候事

○乾第百四拾七號

十一月十六日

十年二月甲第十九號ヲ以達有之ニ付附之

○乾第百四拾八號

同日

當明治九年分地租金ノ儀新稅施行ノ際一般金納可致筈ノ處地方ノ景況ニヨリ收穫米一時ニ青捌候ヲハ相場上ニ差響キ事實無金儀場合ニ於テハ別紙假規則ノ通人民ノ請願ニヨリ税金抵當奉預リ遣スヘク候

條此改布達候事

税金抵當トシテ上米預リ方假規則

第一條 人民ノ請願ニ依リテハ税金抵當トシテ上米預リ遣スヘキニ付別紙甲雛形ノ通一村預リ米高ヲ記載シ願人總代二人以上ノ連印ヲ以テ來明治十年一月十五日限願出スヘシ

第二條 縣廳ヘ差出ス處ノ願書ハ一村ノ米高ヲ以テスルト雖モ戸長手許ニ於テハ別紙乙雛形ノ如ク一人毎ニ其米高ヲ詳記シ各自捺印シタル書面ヲ取置キ其税金ヲ納メ預リ米ヲ差戻シタル都度々々其員數ヲ記注シ人別ニ於テ之ニ捺印セシムヘシコノ書面ハ縣廳ノ都合ニヨリ不時ニ之ヲ差出サセ若クハ巡回官吏ニ於テ之ヲ檢閱スルコトアルヘシ

第三條 抵當米ハ從前ノ貢納石代相場ノ振合ヲ以テ納金ニ引當ヘキ米類ヲ見積リ之ヲ預リ置キ時々米價ヲ見計ラヒ人民ヨリ賣却セシ事ヲ請願セハ預リ米拂ニ切符ヲ與ヘ人民立合開封ノ上之ヲ賣却セシメ其代金ハ即時納金ノ内ヘ收入スヘシ尤其金高最前ノ見積リ高ニ過ル時ハ之ヲ下付シ不足アル時ハ之ヲ追徴スヘキモノトス

第四條 前條ノ拂切符ハ戸長手許ニ纏メ置キ巡回官吏殘米高ヲ檢査スヘキ時ハ其拂切符ノ米高ト殘米高トヲ計算シ之ヲ最初ノ預高ニ照合スルノ用ニ供スルモノトス預リ米皆拂ノ日ニ至リ悉皆之ヲ縣廳ヘ還納スヘシ

第五條 抵當米ハ徵收期限第二期納ノ内其納金高ノ三分一迄ヲ用途トシテ預リ遣スヘシ即チ明治十年一月三十一日限り納ムヘキ四步

通りト同三月三十一日限納ムヘキ四歩通りト合計八歩通りト三分一  
トス 九年十一月三十日限納ムヘキ貳歩通ハ原來第一期內ニ納ムヘ  
キモノトス 殘ル八歩通りノ三分一ハ即チ全年租額ノ貳歩六厘  
六毛  
當ル

第六條 抵當米ハ相場ノ下落ニヨリ金高不足ヲ生スル時成ルヘク追  
徴ノ患コレナキ爲メ凡積リ石數ノ二割増チ目途トレテ之ヲ預リ置  
キ其之ヲ下ケ戻ス時ニ至テモ同様ニ割増ノ儘之ヲ下戻スモノトス  
第七條 抵當米ハ俵捲等總テ從前ノ貢米同様ニ相仕立粗畧ノ儀コレ  
アルヘカラス尤合米ハ差入ル、ニ及ハスト雖モ自然欠減等ノ損害  
ヲ生スル時ハ納人ニ於テ之ヲ補償スヘキモノトス

第八條 抵當米ハ一小區若クハ二三小區毎ニ一ヶ所ツ、牢固ナル郷

倉ヲ撰ミ之ヲ積ミ入レ人民立合ノ上封印スルモノトス其積ミ入レ  
ノ手數及ヒ倉庫番人及ヒ倉敷賃ヲ要スルモノハ其費用等總テ納人  
ノ受持タルヘク其他盜火難等ノ損失ノ如キモ亦總テ納人ノ損失ニ  
屬スベシ

第九條 抵當米ヲ差入レタル分ハ縦令納期限ヲ過ルトモ明治十年四  
月三十日迄ハ未納ノ處分ニ及ハサルモノトス

第十條 明治十年五月一日以後ニ至ルモ之ヲ賣却レ能ハスレテ納金  
セサル時ハ之ヲ競賣セシムヘシ官ノ都合ニヨリ時價ヲ以テ買上ル  
ヲモアルヘシ其節ハ積出港へ運搬レ請渡ヲナスマアノ費用ハ人民  
ノ受持タルヘシ尤其受渡ノ手續ハ從前ノ貢米取扱振ニ據ル

第十一條 競賣等ノ手續ヲ要スル爲メ明治十年五月一日以後ニ至リ

納金未納ノ姿ト相成トモ特別ヲ以テ怠納ノ處分ハ宥恕セラレヘシ  
第十二條 前條競賣ノ爲メ入札ヲ廣告セシ以上ハ其入札代價納人ノ  
意ニ満足セスト雖モ納人ニ於テ其競賣ヲ拒ム事ヲ得ス且賣却ノ上  
最前ノ見込金額ヨリ不足シ追徴ノ場合ニ至ルトモ納人ニ於テ苦情  
ヲ申立ルヲ得サルヘシ

第十三條 抵當米ハ納人各自都合ノ爲メ之ヲ預リ遣スヘキ筈ニ付一  
日ノ利得ヲ謀リ他人ノ米ヲ引受ケ之ヲ抵當ニ差入ル、事ヲ許サス  
其他コノ抵當米ヲ以テ更ニ他ノ私借ノ抵當ニ差入ル、等總テ姦詐  
ノ所業コレアルコト於テハ取札ノ上相當之ヲ處分スヘシ

甲號雜形

税金抵當米ノ儀ニ付願

何郡何村

九年分地租金高何程ノ内何歩何厘通

全數ノ貳歩六厘六毛  
以内タルヘシ

一金何程

此抵當米何程

但米壹石ニ付金何程

外米何程

但二割増ノ分

合米何程

右ハ當明治九年分地租金抵當米トシテ御預リ被下置度尤假御規則  
ノ通堅ク相守ルヘキハ勿論後日苦情ヲ聞敷儀一切申上聞敷候條願  
之通御許可相成度此段奉願候也

何大區何小區何郡何村

年月日

願人總代

誰印

同 同

誰印

右村組頭

誰印

縣令名宛區戸長連印等ハ通常願書式ノ通

乙號雜形整帳橫帳勝手タルヘレト雖也  
記注方ハ頗ル詳明ナルヲ要ス

税金抵當米願下調書

地租金高何程ノ内何歩  
何厘

全數ノ或歩六厘六毛以  
内ハ各自ノ都合ニ任ヌ

一金何程

何ノ誰印

此抵當米何程

但米壹石ニ付金何程以下同

外米何程

但粟割増ノ分

合米何程

内

米何程

第何號御拂米

同何程

第何號同

同何程ノ内何歩  
何厘

一金何程

何ノ誰印

此抵當米何程

外米何程

合米何程

内	
米何程	第何號御拂米
同何程	第何號御拂米

人別毎ニ右ノ如ク相認メ其下戻レテ願ヒ出拂切符ヲ差下ケタル都  
度々々輪廓ノ如ク之ヲ記注スヘシ

計合

地租金高何程ノ内 何歩 何厘

入別ヲ合計セル平均歩合ナリ

金何程

此抵當米何程

外米何程

合米何程

内	
米何程	何月何日 第何號御拂切符
米何程	何月何日 第何號御拂切符
米何程	第何號御拂切符

右者明治九年分地租金抵當米御預之儀懸廳へ出願候處假御規則ノ  
通堅ク可相守者勿論後日若情ク間敷儀一切申出間敷仍而銘々押印  
仕處相違無御坐候也

年月日

總代二人組頭連印戸長奥書等第一號  
雛形ニ同シ

○乾第百四拾九號

十一月十七日

當九年分地租金假納ノ儀ニ付伊豫國へハ本年十月十一日 付番外ヲ以 讚岐國へハ同 十三日及布達置候越モ有之處更ニ左ノ通假納額相定候條此段布達候事

一明治六年ヨリ同八年マテ三ヶ年貢納額平均ヲ以明治九年ノ地租假納額トス

一假納石代ハ從前石代相場立ノケ所十月十五日ヨリ十二月十五日マテ日數六十二日間平均ヲ以相定ノ追テ布達スヘシ

一徵收期限左ノ通

初納

二步通

九年十一月三十日限リ

是ハ平均石代相場未定ニ付假ニ米并大豆壹石金四圓小豆壹石金五圓鹽壹石金八拾錢ノ相場ヲ以徵收シ石代相場相定候上二納三納ノ内ヲ以過不足差引ヲナスヘシ

二納

四步通

十年一月三十一日限リ

皆納

四步通

同年三月三十一日限リ

○乾第百五拾號

十一月十八日

秩祿并新舊公債利賦金拂渡ノ節証書小札裏面へ押印方ノ儀ニ付本年四月大藏省甲第九號ヲ以布達有之候處萬一不辨知ノ者有之押印區々

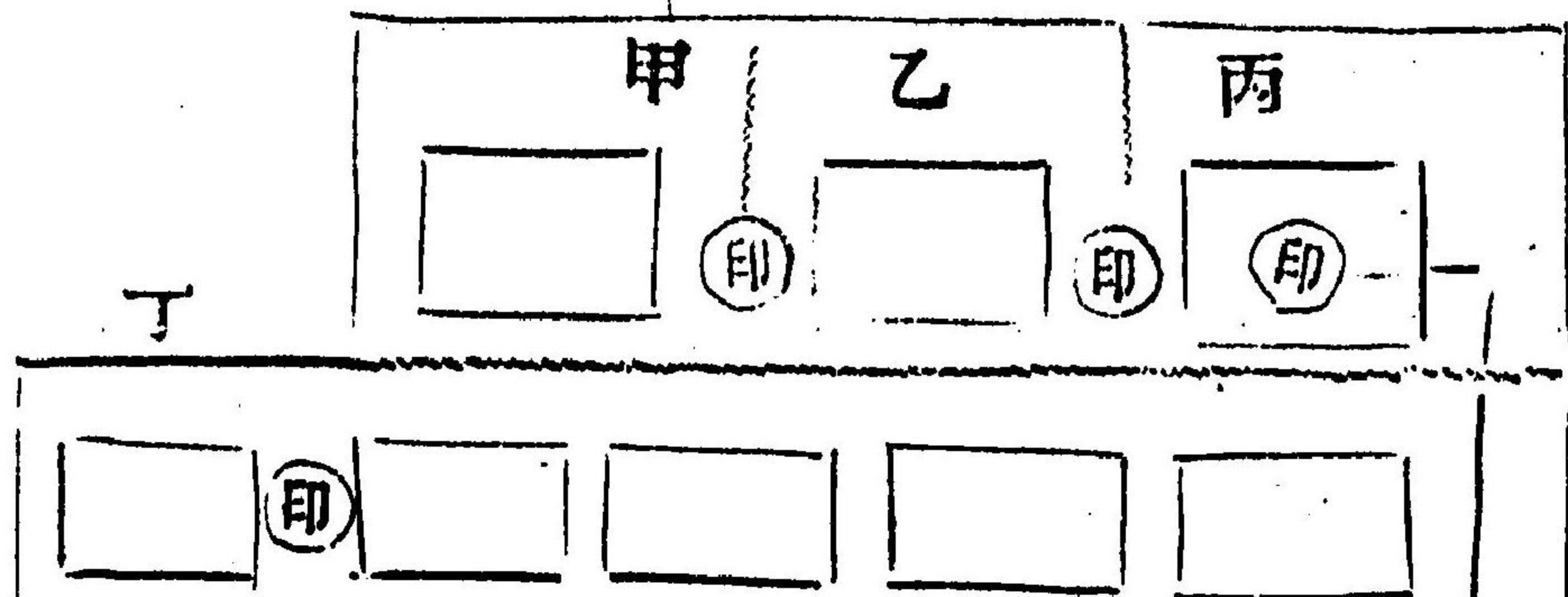
相成候ヲハ不都合ニ付爲心得別紙雛形ヲ以相示候條誤謬無之様可致  
 注意此段公債証書所持ノ者へ布達候事

但新舊公債ノ儀ハ利賦小札ヲ証書ノ下部ニ附添シタル差違有之ノ  
 ミニ付別ニ圖面ヲ附セス候條推知可致事

公債証書裏面へ押印ノ圖

此圖ハ裡面ヨリ見ルモノナ  
 レハ必表裏ヲ誤ルヘカラス

甲ハ本年分ノ利  
 札ニテ乙ハ翌年  
 分ノ利札ヲ示シ  
 タルナリ



七年發行証書ノ明  
 十年小札八年發行  
 証書ノ十一年小札  
 ノ如キ端側ニテ左  
 右共割印難出來時  
 ノ圖ノ如ク真中へ  
 押印スヘシ



○乾第百五拾壹號

同日

今般松山裁判所被置候ニ付テハ來ル廿八日開廳事務取扱候旨通知有之候條以後訴訟ニ關スル諸願伺届等左ノ名宛ヲ以可差出此段布達候事

松山裁判所長

六等判事伴 正臣

但當縣裁判所閉庭ノ日ヨリ松山裁判所開廳當日迄ノ日數ハ出訴期限ニ算入不致旨是又通知有之候事

○乾第百五拾貳號

十一月廿七日

松山裁判所開廳後官員出退刻限ノ儀當分ノ内午前第九時出頭午後第三時退出ニ付諸願伺届等午前第十時迄ニ可差出但至急ノ事件ハ此限

六十八

ニ非サル旨通知有之候條此段布達候事

○乾第百五拾三號

同日

本月廿八日松山裁判所開廳ニ付當分本廳内ニ勸解席ヲ置キ事務爲取扱候旨通知有之候條此段布達候事

○乾第百五拾四號

無輪廊

同日

本縣裁判所へ是迄出頭致シ居候勸解事件今般松山裁判所開廳相成候ハ、更ニ同所へ可願出此段布達候事

○乾第百五拾五號

十二月四日

今般第八大區ヨリ第廿一大區マテ小學聯區分劃左之通相定候條爲心得此段布達候事

第四大學區第三拾貳番中學區内小學聯區番號

第八大區分

- 第一聯區 城山學校外六ヶ校
- 第二聯區 山崎學校外四ヶ校
- 第三聯區 愛離學校外四ヶ校
- 第四聯區 遷喬學校外三ヶ校
- 第五聯區 豐郷學校外五ヶ校
- 第六聯區 潤身學校外五ヶ校
- 第七聯區 柳泉學校外三ヶ校
- 第八聯區 泉川學校外三ヶ校
- 第九聯區 培養學校外三ヶ校

第九大區分

- 第十聯區 積善學校外四ヶ校
- 第十一聯區 楠學校外三ヶ校
- 第十二聯區 成美學校外二ヶ校

第十大區分

- 第十三聯區 媛松學校外三ヶ校
- 第十四聯區 通道學校外二ヶ校
- 第十五聯區 循性學校外三ヶ校
- 第十六聯區 必明學校外二ヶ校
- 第十七聯區 丹生學校外一ヶ校

同第三拾三番中學區內小學聯區番號

第十一大區分

第一聯區	發英學校外四ヶ校
第二聯區	啓己學校外三ヶ校
第三聯區	信成學校外五ヶ校
第四聯區	宮窪學校外五ヶ校
第十二大區分	
第五聯區	近見學校外三ヶ校
第六聯區	高部學校外四ヶ校
第七聯區	波方學校外二ヶ校
第八聯區	別府學校外二ヶ校
第九聯區	菊間學校外二ヶ校
第十聯區	淺海學校外二ヶ校

第十一聯區	安居學校外三ヶ校
第十二聯區	花垣學校外三ヶ校
第十三聯區	波田學校外三ヶ校
第十四聯區	高繩學校外三ヶ校
同第三拾四番中學區內小學聯區番號	
第十三大區分	
第一聯區	凹學校外五ヶ校
第二聯區	琢磨學校外五ヶ校
第三聯區	吉内學校外五ヶ校
第四聯區	時雍學校外五ヶ校
第五聯區	汐見學校外四ヶ校

- 第六聯區 星岡學校外五ヶ校
- 第七聯區 保泉學校外五ヶ校
- 第八聯區 插桃學校外四ヶ校
- 第九聯區 西府學校外四ヶ校
- 第十聯區 湯山學校外五ヶ校
- 第十一聯區 勝山學校外二ヶ校
- 第十二聯區 開通學校外二ヶ校
- 第十三聯區 回車學校外五ヶ校
- 第十四聯區 八幡學校外五ヶ校
- 第十五聯區 由良學校外十九ヶ校

同第三拾五番中學區內小學聯區番號

- 第十四大區分
  - 第一聯區 久萬學校外三ヶ校
  - 第二聯區 觀善學校外三ヶ校
  - 第三聯區 味川學校外二ヶ校
  - 第四聯區 七靈學校外三ヶ校
  - 第五聯區 共學校外四ヶ校
  - 第六聯區 古味學校外三ヶ校
  - 第七聯區 大川學校外二ヶ校
  - 第八聯區 露峰學校外三ヶ校
- 第十五大區分
  - 第九聯區 開達學校外二ヶ校

第十聯區	開進學校外二ヶ校
第十一聯區	旭川學校外三ヶ校
第十二聯區	文健學校外二ヶ校
第十三聯區	墨水分校外二ヶ校
第十四聯區	興讓學校外二ヶ校
第十五聯區	里美學校外三ヶ校
第十六聯區	磯野學校外二ヶ校
第十七聯區	鏡泉學校外二ヶ校
第十八聯區	砥溪學校外四ヶ校
第十九聯區	葦水學校外三ヶ校
第二十聯區	千里分校外三ヶ校

第廿一聯區	森學校外三ヶ校
第廿二聯區	至誠學校外二ヶ校
第廿三聯區	臨泉學校外四ヶ校
第廿四聯區	鹿島學校外二ヶ校
第廿五聯區	明道學校外二ヶ校
第廿六聯區	熱海學校外三ヶ校
第廿七聯區	六溪學校外四ヶ校
第十六大區分	
第廿八聯區	晚翠學校外五ヶ校
第廿九聯區	啓道學校外七ヶ校
第三十聯區	明治學校外三ヶ校

第三十一聯區	廣幡學校外六ヶ校
第三十二聯區	秋成學校外三ヶ校
第三十三聯區	南山學校外三ヶ校
第三十四聯區	就正學校外三ヶ校
第三十五聯區	大成學校外三ヶ校
第三十六聯區	漸成學校外三ヶ校
第三十七聯區	官原學校外五ヶ校
第三十八聯區	清盛學校外三ヶ校
第三十九聯區	大成學校外二ヶ校
第四十聯區	松音學校外六ヶ校
第四十一聯區	令教學校外四ヶ校

同第三拾六番中學區內小學聯區番號

第十七大區分

第四十二聯區	櫻丘學校外五ヶ校
第四十三聯區	功山學校外二ヶ校
第一聯區	神山學校外二ヶ校
第二聯區	瑞溪學校外二ヶ校
第三聯區	石堂學校外二ヶ校
第四聯區	津羽井學校外三ヶ校
第五聯區	熙々學校外四ヶ校
第六聯區	楠學校外三ヶ校
第七聯區	宮内學校外二ヶ校

第八聯區	群魚學校外二ヶ校
第九聯區	明智學校外四ヶ校
第十聯區	二名津學校外三ヶ校
第十一聯區	薰成學校外二ヶ校
第十二聯區	真海學校外二ヶ校
第十三聯區	贊化學校外二ヶ校
第十四聯區	朝立學校外二ヶ校
第十五聯區	凌霜學校外三ヶ校
第十六聯區	釜倉學校外二ヶ校
第十七聯區	若山學校外二ヶ校

第十八大區分

第十八聯區	山田學校外三ヶ校
第十九聯區	楷梯學校外三ヶ校
第二十聯區	開知學校外二ヶ校
第二十一聯區	安塲學校外二ヶ校
第二十二聯區	日新學校外四ヶ校
第二十三聯區	贊裏學校外三ヶ校
第二十四聯區	南山學校外四ヶ校
第二十五聯區	開明學校外二ヶ校
第二十六聯區	赤龍學校外三ヶ校
第十九大區分	
第二十七聯區	隆森學校外八ヶ校

第廿八聯區 習成學校外九ヶ校  
第廿九聯區 高研學校外七ヶ校

同第三十七番中學區內小學聯區番號

第二十大區分

第一聯區 吉田學校外五ヶ校  
第二聯區 關明學校外三ヶ校  
第三聯區 大成學校外二ヶ校  
第四聯區 文岡學校外三ヶ校  
第五聯區 日新學校外三ヶ校  
第六聯區 啓倫學校外四ヶ校  
第七聯區 勸善學校外五ヶ校

第八聯區 鳳鳴學校外三ヶ校  
第九聯區 成美學校外五ヶ校  
第十聯區 鶴島學校外二ヶ校  
第十一聯區 成溪學校外四ヶ校  
第十二聯區 勸善學校外三ヶ校  
第十三聯區 遊子學校外四ヶ校  
第十四聯區 開成學校外三ヶ校  
第十五聯區 岩松學校外四ヶ校

第廿一大區分

第十六聯區 協和學校外四ヶ校  
第十七聯區 平城學校外六ヶ校



第十八聯區	網代學校外四ヶ校
第十九聯區	竟榮學校外六ヶ校
第二十聯區	進導學校外四ヶ校

合計

六中學區  
 十四大區  
 百三十八聯區  
 六百廿三校

右之通候事

○乾第百五拾六號

同日

讚岐國多度郡多度津港浚費償却ノ爲明治九年十一月ヨリ明治二十二

年十月マテ滿十三ヶ年間左之通諸船入港錢取立ノ儀内務省ノ許可ヲ得テ施行ノ筈ニ候條此段爲心得船持ノ者へ布達候事

入港錢取立規則

日本形船	壹艘ニ付 金貳錢
一貳拾石積以內	同 金三錢
一五拾石以外何千石積ニ至迄	帆壹反ニ付 金壹錢
西洋形船	拾石ニ付 金五厘
一八噸以外三拾噸積以內	

但西洋形船噸數ヲ以テ唱へ候分壹噸ハ六石七斗貳升ノ割ヲ以  
石ニ直レ取立ツルモノトス

一三拾噸以外七拾噸積以內

同

金三厘七毛五絲

但前同斷

一七拾噸以外何百噸積ニ至迄

同

金貳厘五毛

但前同斷

○乾第百五拾七號

無格郎

十二月六日

昨八年太政官第百三拾八號ヲ以公布相成候華士族平民家祿賞典祿共  
金祿ニ改定相成候ニ付テハ金祿高壹人別調帳鐵本ヲ製レ大藏省へ差

出於同省查定ノ上伊豫國分ハ先般下附相成候ニ付己ニ一定ノ高ヲ領  
知セレノ置候得共讚岐國分ハ未ダ下附不相成ニ付追テ可相達然ル處  
本年第百八號ヲ以金祿公債証書發行條例公布相成候ニ付テハ各地方  
廳ヨリ差出候金祿帳查定人名ヲ以証書下附可相成候得共金祿帳下附  
相成候後 貴屬替ノ者又ハ寄留先キニテ証書受取度旨願出候者及昨八  
年金祿改定公布後寄留先ニテ金祿受取度旨願出既ニ聞届濟  
ノ分 其間届ノ管廳へ証書下附可相成ニ付右等ノ分ハ人名金祿高本年  
十二月ヲ限リ取調同省へ届出爾後實際証書下附濟迄ニ貴屬替又ハ寄  
留等ノ者其本管廳へ罷越受取候テハ遠隔ノ地ニテ不便ノ向ハ本人願  
ニ因リ申廳ヨリ乙廳へ送達レ乙廳ニ於テ渡方可取計等該省ヨリ達有  
之候條此致爲心得有祿ノ者ハ布達候事

但讚岐國分ハ未タ金祿帳查定濟ニ至ラスト雖モ實屬替ノ者並寄留  
先ニ於テ受取方願出己ニ開届候分ハ水文同様可相心得事

○乾第百五拾八號 無輪廊 十二月七日

秩祿公債本年分利子金本月十五日ヨリ廿七日迄ノ内伊豫國分ハ本廳  
ニテ讚岐國分ハ高松支廳ニ於テ拂渡候條證書面ニ附添レタル當季可  
拂渡利子小札切取元利金高証書種類枚數番記號ヲ記載レタル目錄相  
添可差出此段秩祿公債證書所持ノ者へ布達候事

但本文利子當季拂渡ノ小札ヲ萬一辨知致レ兼候者ハ證書其儘持參  
可致且代人ヲ以受取度向ハ必本人調印ノ委任狀持參致スヘキ事

○乾第百五拾九號 十二月十二日

度量衡傳器検査濟廢印ヲ烙記セルモノヲ賣買營業上ニ相用ヒ或ハ烟

草卸  
草小賣營業免許ノ者共自用ノ者へ賣渡ノ節成規ノ通印紙ヲ貼用セス  
或ハ之ヲ貼用スルモ賣主ニ於テ之ニ捺印セスレテ再用セシムルモノ  
有之哉ニ相聞右ハ官令ニ違反レ以ノ外ノ事ニ付向後吃度探偵ノ上若  
違反ノ者コレアルニ於テハ速カニ處分ニ及フヘク候條心得違無之様  
注意致スヘク此段爲心得右營業ノ者共ハ諭達候事

○乾第百六拾號 十二月十六日

明治十年二月甲第拾九號ヲ以達有之ニ付略之

○乾第百六拾壹號 無輪廊 同日

新公債本年下半年分利子金舊公債本年分年賦金共本月廿日ヨリ廿七  
日迄ノ内拂渡候條證書面ニ附添レタル當季可拂渡小札切取其元金并

利賦金高證書種類枚數番記號ヲ記載シタル目錄新債ト舊債ト相添本別紙ニ認ム應ヘ可差出此段該證書所持ノ者ヘ布達候事

但本文利賦當季拂渡ノ小札ヲ辨知致兼候者ハ證書其儘持參可致且代人ヲ以受取度向ヘ必本人調印ノ委任狀持參致スヘキ事

○乾第百六拾貳號 同日

明治十年十二月甲第百六拾壹號ヲ以廢止

○乾第百六拾三號 十二月十九日

諸願伺届等用紙ノ儀ニ付兼テ及布達置候儀ニ有之候處先般讚岐國合併相成區々ノ料紙相用候ヲハ追テ編纂方差支不都合ニ付來明治十年一月ヨリ管内人民願伺届共美濃所白紙相用可申此段布達候事

但編綴ノ都合ニ有之候ニ付前後ヘ曲大ニ寸上ヘ全一寸五步餘白ヲ存ヘニツ折下ヘ全一寸

十行ニテ一行凡貳拾字詰ノ積ヲ以テ不體裁ノ儀無之様相認可申事

○乾第百六拾四號 無繪廊 十二月廿五日

京都府下上京第貳拾七區津輕町平民島田八郎左衛門所有ノ動不動産共當縣讚岐國第四大區壹小區香川郡兵庫町同三小區瓦町ニ有之分今般別紙ノ通入札ヲ以拂下候條望ノ向ハ左ノ通相心得來明治十年一月十日限入札別紙雛形ニ倣ヒ伊豫國ハ大區會所讚岐國ハ小區々務所ヘ可差出此段布達候事

一拂下代金ノ儀ハ開札ノ上落札相達候日ヨリ十日間ニ皆納ト定ムト雖モ望人ノ都合ニ依リ代金四ヶ年以内ノ年賦ヲ以相當利子ヲ見積

入札スルモ不苦事

一入札同價ハ開札ノ前後ヲ以テ前札ヲ落札ト定ムル事

一落札代價不相當ト見認ムルハ再ヒ入札爲致候儀モ可有之事

一望ノ者邸地附屬品見改度向ハ直ニ同所へ可相越事

別紙畧之

○乾第百六拾五號

十二月廿七日

本年十一月十一日乾第百五拾壹號布達但書ノ儀ハ當縣裁判所閉庭ノ日ヨリ

松山裁判所開庭當日迄ノ間ニ訴訟期限ノ過去ル分ニ限リ右日數ハ期限ニ入算不致儀ト可相心得旨通知有之候條此段布達候事

○坤第八拾六號 無輪廊 七月一日

各區々戸長

郵便之儀ハ衆庶便利ヲ開カン爲設ケラレ候處或ハ其規則不熟知ヨリ不都合ヲ來ン候者有之趣ニ付今般驛遞寮合議ノ上別紙郵便規則抄録并ニ郵便稅ノ心得書下渡候條其區内各掲榜場エ無洩可及揭示此段相達候事

但レ本紙ノ儀ハ成規ノ日限ヲ過ルモ取除カヌ猶存ニ置候儀ト可相心得事

別紙略之

○坤第八拾七號 無輪廊 七月十日

各區々戸長

學區取締

諸官員暑中賜暇ノ儀公達ノ趣モ有之候條各區々戸長學區取締ニ於テモ御用差支不相成様同務等申合本月十一日ヨリ來九月十日迄ノ間ニ於テ凡ソ三十日以内ノ積ヲ以休暇可致此段相達候事

但賜暇中旅行差許候條右様ノ輩ハ其旨可届出事

○坤第八拾八號 無輪廊 七月十一日

各區々戸長

出雲大社大官司兼大教正千家尊福縣下教會所開講式爲執行不日到着相成候ニ付而ハ各區ヨリ信仰ニ依テ説教等依頼候趣ノ處渾テ實着ニ聽聞可致尤一時ノ雷同ヨリ浮薄ノ舉動或ハ無根ノ流説ヲ唱ヘ候等ノ儀無之様可致且又右説教依頼ヲ名トシ勸財等致候者モ有之哉ニ相聞

以ノ外ノ事ニ候右ハ何方ニテ説教致候共渾テ自費ヲ以派出相成候旨掛リノ者ヨリ申出候ニ付心得違無之様一般人民へ可觸示此段相違候事

○坤第八拾九號

同日

從前各戸長限ニテ相辨シ候事務ト雖モ各大區會所ヲ經由致來候處自今郵便線路已開之分ニテ別紙件々等ニ限直ニ該小區取扱所へ下達取計候條縣廳へ進達方モ右同様可相心得此段相違候事

但各大區一般關係之事件ハ下達上申共從前之通タルヘキ事

第壹大區之分

壹小區 拾七小區

第貳大區之分

十小區 十六小區 十七小區

第三大區之分

壹小區 九小區 十五小區

第四大區之分

壹小區 十貳小區 十三小區 廿四小區

第五大區之分

明治九年九月番外ヲ以第五大區正當時  
拾二大區之分改正

四小區 六小區 九小區 十小區

第六大區之分

一小區ヨリ三小區迄 十一小區十二小區 十六小區ヨリ

十八小區迄 二十八小區 三十一小區 三十貳小區

三十六小區ヨリ五十壹小區マテ 五十四小區ヨリ  
六十六小區マテ 六十九小區

第七大區之分

壹小區

第八大區之分

十一小區ヨリ十三小區迄 十九小區 廿二小區 廿三小區

第九大區之分

五小區 十三小區 十九小區 二十小區 二十六小區

第十大區之分

壹小區 十三小區 十四小區 十六小區

第十一大區之分

一小區 二小區 八小區 九小區

第十二大區之分

二小區 四小區

第十三大區之分

一小區ヨリ三小區迄 六小區ヨリ八小區迄 十一小區

二十小區 二十一小區 二十五小區 廿六小區

第十四大區之分

三小區 四小區

九小區

ソ

右小區事務扱所郵便局市内ニ設置有之候分



第一課之分

原籍取調之件

戶籍加除屆之內不審調之件

有籍者遞送費取立上納之件

〔晚走之者尋方達之件〕

〔明治九年七月坤第九拾六號〕  
ヲ以第一課ノ分第四款删除

神官僧侶進退願不審調之件

第二課之分

物產取調之件

第三課之分

諸税金上納督促之件

第四課之分

地所賣買或ハ讓渡ニ付不審調之件

券狀渡方之件

諸引合人呼出之件

巡查試驗ニ付喚出之件

難船ニ付浦役人へ達之件

犯罪人原籍取調之件

拾物満期下渡之件

第六課之分

諸上納并渡金督促之件

人民ニ出願上ニ付取調之件

裁判所之分

民事刑事之兩件ニ於テ喚出サナレタル人民エノ喚出狀

民事刑事ノ兩件ニ於テ引合人並ニ証人トシテ喚出サナレタル

人民エノ喚出狀

贓物給沒事件ニ付喚出サナレタル人民エノ喚出狀民事刑事之

兩件ニ於テ喚出サナレタル戸長並ニ組頭等エノ喚出狀

右件々等ノ如キハ各小區扱所エ直ニ下達候條進達方ニ同様可相心得事

○坤第九拾號 七月十七日

明治九年九月坤第百拾二號ヲ以各大區詰官吏一同本廳へ引揚ニ付自ラ消滅並區長委任追加明治七年五月無號ニ附ス

一大區	權少屬	大關 貞觀
二大區	十四等出仕	和田 義路
三大區	權少屬	中野 義則
四大區	十一等出仕	高島 信孝
六大區	十二等出仕	陶不窓次郎
七大區	十四等出仕	秋山 靜
九大區	十四等出仕	徳田 儀一
十大區	十四等出仕	川名 謙藏
十一大區	十四等出仕	長尾 信敬
十三大區	十一等出仕	杉山新十郎
十四大區	權少屬	山口 正邦

直五大區八大區十二大區ハ追テ派遣セラルヘシ

○坤第九拾壹號

同日

各區々戸長

分合村ノ議ニ就テハ主務ノ省ニ於テ詮議ノ筋有之當分見合セ可申答  
ニ付願ノ村々へ及指令置候趣モ有之處這回地理頭ヨリ通知ノ趣モ  
有之ニ付前段指令ニ寄リ見合セ居候分ハ從前ノ通處分方向出候様可  
取計此段爲心得相違候事

○坤第九拾貳號

同日

各區々戸長

大小區費ハ三ヶ月毎ニ可取立定則ニ候得モ區々ノ都合ニヨリ成規通  
リ取立難キ向有之已ムヲ得ス區戸長限リ借入金ヲ以練替來候處返辨

ノ際往々差纏レテ生レ候向不尠趣不都合ノ至リニ候條自今右様ノ儀  
決レテ不相成候尤以後區戸長証書ヲ以區費金ヲ借入萬一差纏レテ生  
レ候節ハ直々ニ該區戸長へ辨償方申付候儀ト可相心得之ニ依テ是迄  
右証書差出有之向ハ町村議事役ニ協議シ速カニ人民普通貸借証書ニ  
引替可申此段相違候事

但レ本文ノ如クレ萬一人民於テ借入相調難ク忽テ差支へ人民總代  
連名ノ請托書ヲ以依頼レ萬一已ムヲ得サル節ニ限リ暫ノ中周旋致  
スヘレト雖モ必ス人民普通ノ証書ヲ用ユヘキ儀ト可相心得事

○坤第九拾三號

七月廿二日

各區々戸長

地券受取証并證印稅上納證共書式今般別紙ノ通相定候條爾後券狀渡

方相達候節ハ往復ヲ除クノ外日數十日以内ニ印稅取纏メ致上納且同日券狀受取人可差出此段相達候事

但昨八年<sup>八</sup>月<sup>八</sup>坤第百廿四號達ノ内第三號地券証印稅上納証離形ハ相廢シ候儀ト可相心得事

〔甲號〕  
〔明治十年一月丙第拾六號ヲ以改正〕

記 〔新規證印稅モ此離形ニ倣ヘ〕

〔此肩書ハ地所ノアル  
大小區郡村名ヲ書ス〕

書換地券證印稅

何大區何小區

一金何程

何郡何町ニテ

是ハ何號ヨリ何號迄何通分

何ノ某納

右之通上納仕候也

何大區何小區

何郡何町

年月日

納人 何ノ某印

縣令宛

右區戸長

何ノ某印

〔乙號〕

証 〔新規地券モ此離形ニ倣ヘ〕

〔此肩書ハ地所ノアル  
大小區郡村名ヲ書ス〕

何號ヨリ何號迄

何大區何小區

一書換地券何通

何郡何町ニテ

何ノ某分

右正ニ受取候也

何大區何小區

何郡何町

年月日

受取人 何ノ某印

縣令宛

右區戸長

何ノ某印

〔但レ本人受取人ナル  
キハ奥印ニ及ハス〕

○坤第九拾四號

同日

各區々戸長

本年坤第四拾三號ヲ以河港道路堤防當春季  
 八年分後半期ニ當ル即チ  
 九年一月ヨリ同六月迄ト  
 ス  
 營繕目論見金高一周歲 甲年七月ヨリ乙年六月  
 マアチ甲年一周歲トス 定額ニ超過候ニ付一  
 應内務省へ申票及フヘキ旨概算ヲ以テ相達置猶精算ヲ遂ケ候處各郡  
 村營繕目論見高之内其官費エ該レモノ總計金壹萬七千〇六拾八圓七  
 拾六錢七厘トス而シテ明治八年分 八年七月ヨリ九  
 年六月ニ至ル 定額金壹萬貳千〇  
 六拾六圓ノ内前半期中 八年七月ヨリ同  
 十二月ニ至ル 遺ヒ拂ヒタル金高五千三百  
 八拾四圓八拾二錢八厘ヲ除キ殘リ金高六千六百八拾壹圓拾七錢二厘  
 トス之ヲ目論見官費金高ニ比較スレハ金壹萬〇三百八拾七圓五拾九  
 錢五厘ノ不足アリ因テ不足金ノ分別途下附コレアリ度旨内務省エ具

狀及ヒ候處別途下渡之儀ハ國費多端ノ際ニ付難聞局候得共事情無餘儀相聞候ニ付金六千〇三拾三圓一周歲定額ノ半數トス當九年七月後經費金之内ヲ以操上ケ下ケ渡候條事實難聞箇所ノ修繕差加ヘ精算之儀ハ九年七月後經費ニ組ミ差出ヘキ旨指令コレアリ就テハ再應檢査ノ上更ニ其緩急ヲ較リ其最モ急ナルモノ而已ヲ撰ミ修繕可申付答ニ候得共各郡村共孰レモ閣キ難キ事情ハ同一様ニ可有之且再檢査ノ爲メ時日遷延候テハ其時期ヲ失ヒ不都合尠ナカラサルヘキニ付此度限り權宜ヲ以テ八年分經費殘金六千六百八拾壹圓拾七錢貳厘ト此度九年七月後經費金ノ内ヨリ繰上ケ下附相成ルヘキ金高六千〇三拾三圓トノ合計金壹萬貳千七百拾四圓拾七錢貳厘ヲ以テ當春日論見官費金高壹萬七

千〇六拾八圓七拾六錢七厘ニ割リ付官費金高百圓ニ付金七拾四圓四拾八錢七厘毛位以下切捨ツ、可下渡候條此旨相心得各郡村共土工落成候ハ、金員受取方可申出候尤本年坤第四拾三號ヲ以相達候如ク昨八年九月全國一般土工經費定額節減改正相成リ此度下附相成ルヘキ經費金六千〇三拾三圓ノ分ト雖別途下附アリレニ非ス固ヨリ九年分經費ノ内ヨリ繰上ケ下附コレアリ儀ニ付以後ノ經費金是迄之通ニハ難下渡都合ニ候條當九年七月以後ハ從前三等營繕箇所ニ當ル溜池井關用惡水路及ヒ樋類等ニ至テハ新規ハ固ヨリ修繕共渾テ官費ヲ仰カス皆民費ヲ以取營ムヘク候尤皆民費ト雖新築ニテ土地變換コレアル分ハ其都度願ヒ出指令濟ノ上着手可致其有形ノ通修繕差加ヘ候分ハ目論見牒相添前以可届出儀ト可相心得候此段相達候事

○坤第九拾五號

七月廿五日

各區々戸長

縊溺死並行倒者等其他變死有之節ニ係ル向不審無之モノニ限リ是迄戸長立合ニ直ニ始末方取計來候處自今最寄屯所詰巡査立會檢視濟異狀無之節ハ始末取計候儀ト可相心得尤歐門殺又ハ賊難等ノ爲メ殺傷セラレ罪狀ニ關スル分ハ其模様ニ依リ警部臨檢爲致候條此段相達候事

○坤第九拾六號

七月三十一日

各區々戸長

本年七月坤第八拾九號達警別紙第一課ノ分第四款刪除

○坤第九拾七號

八月十日

各區々長

明治九年九月坤第百拾二號ヲ以各大區詰官員引揚ニ付自消滅

○坤第九拾八號

八月十四日

各區々戸長

五拾石未滿ノ船破ノ節ハ願出及指令來候處自今後出願ニ不及其都度爲届出戸長ニ於テ檢印并檢印ノ木札ハ燒却右局面へ其旨奥書レ可差出此段相達候事

○坤第九拾九號

同日

各區々戸長

一二月或ハ七月頃鍼ニ緒ヲ着ケ紙ヲ打テ勝負ヲ争フハ小兒ノ一戲翫

ト雖ニ誤テ被傷スルノ患ナキニレモアラヌ且幼少ヨリ賭勝負ヲ好  
ハ宜シカラサル儀ニ付右等ノ遊戯ヲ爲サ、ル厚様ク父兄ノ者へ可  
相諭事

一前條紙打ノ的紙又ハ紋付紙其他鎖末ノ書圖ト雖ニ出版條例ニ依リ  
允許ノ上販賣スルモノニ非サレハ一切差止向來ヲ警戒可致事  
右之通相違候事

○地第百號

八月十五日

各區々戸長

代官人出願有之節保証奥書別紙雛形ノ通相定候條以來右ニ照準シ可  
差出此段相違候事

代官人願書奥書雛形

第一條 本人ノ品行ハ正直ニ御坐候事

又ハ毀譽共無之候事

又ハ保証不得致候事

第二條 履歴ハ左ノ通ニ御坐事

一何大區何小區何郡何町何番地居住候事

但他管ヨリ寄留ノ者ナレハ本管何府縣管下何大區何小區何町何

郡何町何番地居住ノ處何年何月ヨリ本縣管下何大區何小區何郡

何町何番地寄留候事ト書ス若レ期限有之ハ何年何月迄寄留ト記

スヘレ又寄留ノ者ニテ履歴詳悉セサレハ其旨本廳へ申出ヘレ

一學術アレハ其學術ハ何々及ヒ其師ハ何ノ誰ニ候事



一曾テ奉職セシコトアレハ何年何月何日何院省ニ於テ何ノ官何何府縣ニ等出仕拜命

何年何月何日免セラレ候事又ハ依願免セ

一族籍及ヒ職業住所ニ前後ノ異アル者ハ其時々ノ始末并ニ其年月

日ヲ記スヘシ

一姓名ヲ變セシ者ハ其舊姓名ヲ書スヘシ

第三條 懲役一年以上實決ノ刑ニ處セラレ候儀無之候事

又ハ何年何月何々ノ刑ヲ受ケ候事

但實決トハ收贖々罪金ニテ濟マサルモノト心得ヘシ

第四條 身代限ノ處分ヲ受ケ候儀無之候事

又ハ何年何月身代限ノ處分ヲ受ケ候者ニ有之候事

第五條 居住所ハ本縣下何大區何小區何郡何町何番地ニ定居候事  
寄留

第六條 當時官職無之候事

又ハ何々ノ官職奉務罷在候事

第七條 諸官員華士族平民一般ノ雇人ニ無之候事

又ハ族籍何ノ誰雇人ニ御坐候事

又ハ族籍何ノ誰雇人ニ候得共雇主承諾ノ証書持參ニ付正ニ檢閲致候事

右之通相違無御坐候也

第何大區何小區戸長

年月日

姓名印

○坤第百一號

八月十八日

各區々戸長

明治七年十一月十一日 坤第百五拾三號ヲ以難破船員數取調一ヶ年分各大區毎  
 取纏ノ翌年一月十五日迄ニ無相違可届出旨太政官第百四十號御達相  
 添達置候處今般太政官第七拾八號御達ノ趣有之候ニ付自今一ヶ年ヲ  
 六月 兩度ニ引分ケ七年坤第百五拾三號別紙雛形ニ照準シ上半年分  
 十二月 其年七月十五日下午半分ハ翌年一月十五日限無相違可届出此段相  
 達候事

但本年六月分ハ來九月十五日限取調無遲々可届出候事

○坤第百貳號

無輪廓

八月廿二日

九十三

各區々戸長

明治九年一月ヨリ六月迄廳中修繕費其他費用管内人民ニ課賦可致  
 分別紙ノ通有之候條取立方取計來ル九月十五日限第六課へ上納可  
 致此段相達候事

明治九年 自一月 至六月 民費課賦

- 一金壹圓八拾三錢八厘 難破船入費
- 一金壹圓五拾七錢六厘 廳中修繕費
- 一金八拾五圓六拾七錢貳厘 管内郵便稅
- 合金八拾九圓八錢六厘

此譯

金貳拾圓六拾五錢八厘

戸懸

此戶數拾七萬千拾五戶

租膏戶二付金壹毛既絲〇八〇貳

金六拾八圓四拾貳錢八厘

石割

此貢米既拾四萬貳千七百六拾石五斗三升貳合三勺

租壹石二付金貳毛八絲壹八七〇

內

金三圓九拾壹錢八厘

第一大區

內

金壹圓五拾三錢壹厘

此戶數壹萬貳千六百七拾二戶

金貳圓三拾八錢七厘

此貢米八千四百六拾九石八斗四升六合

金五圓五拾貳錢貳厘

第二大區

內

金壹圓六拾七錢七厘

此戶數壹萬三千八百七拾七戶

金三圓八拾四錢五厘

此貢米壹萬三千六百四拾石貳斗八升六合

金六圓三拾八錢貳厘

第三大區

內

金壹圓拾四錢

此戶數九千四百四拾戶

金五圓貳拾四錢貳厘

此貢米壹萬八千五百九拾七石五升八合

金七圓九拾三錢八厘

第四大區

內

金貳圓四拾壹錢三厘

此戶數壹萬九千九百七拾三戶

金五圓五拾貳錢五厘

此貢米壹萬九千五百九拾九石九斗四升

金六圓四拾四錢壹厘

第五大區

內

金壹圓五錢五厘

此戶數八千七百三拾七戶

金五圓三拾八錢六厘

此貢米壹萬九千八百八石五斗九升七合

金拾八圓三拾錢四厘

第六大區

內

金三圓五錢八厘

此戶數貳萬五千三百拾壹戶

金拾五圓貳拾四錢六厘

此貢米五萬四千八拾七石六斗七升壹合

金壹圓九拾貳錢

第七大區

內